

意見検討結果一覧表

(案名:岩手県次期総合計画第1期アクションプラン「地域振興プラン(仮称)」(中間案)についての意見募集)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
1	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	指標項目		「出生率」は、指標候補に入れないのか。	「合計特殊出生率」については、県全体として取り組むべき大きな指標であることから、地域振興プランではなく、政策推進プランのなかに「いわて幸福関連指標」として掲げています。	F (その他)
2	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	指標項目		指標候補に挙げている「スポーツ実施率」とは、どのようなものか。	スポーツ実施率とは、成人が週1回以上、スポーツを実施した割合のことで、県文化スポーツ部が全市町村あてにアンケート調査を依頼し、取りまとめているものです。	F (その他)
3	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります		経済的な理由等で学習の機会に恵まれない子どもに対する支援について、子供たちに学ぶ機会を与えることは非常に重要だと思っているが、そういった部分についてあまり書かれていない。今後そういったところをどのように考えているのか教えていただきたい。	経済的な理由等で学習の機会に恵まれない子どもに対する学習支援については、平成25年度から生活困窮者自立支援制度における「子どもの学習支援事業」を導入して取り組んでいるところであり、これまで中学生から、小学生及び高校生等まで対象者を拡大してきたほか、平成30年度からは、県内で初めて、小学生とその保護者に対する巡回訪問型の学習支援及び生活支援を開始したところです。今後は、引き続き実施区域の拡大や参加者の更なる増加に取り組むこととしています。	F (その他)
4	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります		子どもの成長とともに、保健福祉の分野と教育の分野が分かれてしまうところがあるので、互いに連携しながら進めていただきたい。	各市町に設置されている「要保護児童対策地域協議会」や「地域自立支援協議会」において、地域の福祉関係機関のほか、教育関係機関、保健・医療関係機関等が参画して、虐待を受けている子どもを始めとする要保護児童や障がい児等への相談支援について、互いに連携しながら取り組んでおり、引き続き包括的な支援体制の構築を促進していくこととしています。	C (趣旨同一)
5	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	①体の健康づくりの推進	アルコール健康障害に関する問題が心の健康づくりに含まれているが、体の健康づくりにおいても取り組まれるべき内容でもある。今年度より岩手県アルコール健康障害対策推進計画が策定されたので、その点にも触れていただきたい。	アルコールによる健康障害は心身の健康問題のほか、社会問題を生じさせる危険性が高いことから、行政、医療、教育、酒類関係事業者、関係団体等が連携して、アルコール健康障害対策を総合的に推進する必要があると認識しているところであり、体の健康づくりの推進における取組として盛り込みました。	A (全部反映)
6	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	①体の健康づくりの推進	「減塩及び野菜摂取量の増加を中心とした食生活や運動習慣などの定着普及」とあるが、野菜の摂取量は家庭によりかなりバラツキがある。健康意識の高い方に情報提供として終わるのではなく、健康意識が低く、改善を要する人に対するアプローチになるような施策をお願いしたい。	健康づくりを推進するうえで、健康意識が低い人に対するアプローチが課題であると認識しており、御意見を参考に、福祉施策等と連携を図るなど創意工夫しながら、取組を推進していきたいと考えています。	D (参考)
7	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	①体の健康づくりの推進	「外食」「中食」で健康な食事を提供できる環境整備について、県のほうでは栄養成分表示を勧めているが、小さな飲食店にはハードルが高い話になる。小さな飲食店も取り組みやすい方法を検討してほしい。	外食や中食の利用頻度が高まっていることから、健康に配慮した食事を提供する飲食店を増やすための取組として、外食栄養成分表示店の登録を推進しており、食品営業許可更新講習会の機会を捉え、地域の飲食店に栄養成分表示の必要性及び登録までの手順等について説明し、積極的に登録していただくよう協力をお願いしているところです。御意見については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D (参考)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
8	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	③あらゆる世代のみんながいきいきと暮らす地域づくりの推進	LGBT関係の記載があるが、具体的にどのような取組を行うのか教えていただきたい。	LGBTなど、様々な理由から困難を抱えている方々が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民や関係機関が連携しワンストップで相談・サービスを提供する体制や社会参加の促進など、生きることを地域で支える包括的な支援体制の構築に取り組むこととしています。	F (その他)
9	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	④安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進	出産・子育てに関する施策として、結婚サポートセンターなどはあるが、晩婚化に取り組む施策は少ないので、もう少しここに力を入れるべきではないか。	いきいき岩手結婚サポートセンター及び市町村等と連携した結婚支援の取組や、仕事と子育ての両立支援及び企業による子育て支援活動の促進などにより、地域全体で結婚や子育てを支援する環境づくりを推進していくこととしています。	C (趣旨同一)
10	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	④安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進	子育て世代包括支援センターについて、対象の年代をどのように想定しているのか。また、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援とは、どのようなものと考えているのか。	子育て世代包括支援センターは、原則全ての妊産婦、乳幼児(就学前)とその保護者を対象とすることを基本とし、地域の実情に応じて18歳までの子どもとその保護者についても対象とする等、柔軟に運営されています。 また、子どもが社会的に自立するまで包括的に支援する子ども家庭総合支援拠点等と一体的に運営されることによって、妊娠期から子育て期まで母子保健施策と児童福祉施策の切れ目のない支援を提供するものです。	F (その他)
11	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-1生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	④安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進	「学習・生活・進学支援等の推進」について、現在どのような取組を行っていて、今後どのような展開を考えているのか。	経済的理由等で学習の機会に恵まれない子どもたちへの支援については、生活困窮者自立支援制度の「子どもの学習支援事業」の対象者を中学生のみだったものから、小学生や高校生等まで拡大したほか、平成30年度からは、県内で初めて、小学生とその保護者に対する巡回訪問型の学習支援及び生活支援を開始したところです。 また、進学支援については、母子福祉資金等の各種修学資金の貸付相談を通じて支援に取り組むこととしています。	F (その他)
12	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります (文化スポーツ)	現状と課題	盛岡広域スポーツコミッションの設立は、スポーツによる交流人口の拡大のみならず、地域スポーツの推進の分野にも深く関わっているので、「1-2」の施策の「現状と課題」として、下記のとおり記載願いたい。 「県央圏域では、スポーツツーリズム等の取組を通じた圏域の魅力の発信と賑わいの創出を図るため、盛岡広域スポーツコミッションが設立され、広域連携による地域スポーツの推進の取組が進められています。」	盛岡広域スポーツコミッションについては、「II 7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します(観光産業)」の「スポーツツーリズムの推進」の「現状と課題」及び「県が取り組む具体的な推進方策」に記述しているところです。 貴団体からの御意見を踏まえ、「I 1-2」の「現状と課題」及び「県が取り組む具体的な推進方策③生涯スポーツの普及啓発及び推進体制の強化」に記載を追加しました。	B (一部反映)
13	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります (文化スポーツ)	現状と課題	県営運動公園には、スポーツクライミング施設があり、盛岡出身の有望な選手がいるものの、「ご当地スポーツ」として市民に広く浸透しているとは言えないので、記載の配慮をお願いしたい。	県では、文化・スポーツ振興戦略において「競技力向上とトップアスリートの育成」や「スポーツツーリズムの振興による地域活性化」に取り組むこととしています。 有望なスポーツクライミング競技選手が育っており、東京2020オリンピック大会をはじめ全国や世界的な大会での活躍が期待されることや盛岡広域8市町で構成するスポーツコミッションが設置されたことなどを踏まえ、スポーツクライミングをモデルケースに競技力向上と地域活性化を図るため、県営のスピード競技施設を整備したところです。 御意見を踏まえ、記載内容を修正しました。	A (全部反映)
14	県央広域振興圏	I圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります (文化スポーツ)	現状と課題	国体のレガシーやオリンピックなどの開催に向けて、「気軽にスポーツに親しむ機運が醸成されつつある」とあるが、大規模な大会の開催により、気軽にスポーツに親しむ機運の醸成に結びつくかは疑問であり、精査が必要ではないか。	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を契機とした県出身選手の活躍や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、スポーツへの関心が高まっており、この機を捉え、地域で気軽にスポーツに親しむ機運をさらに高めていくことが必要だと考えています。 御意見を踏まえ、多種多様な主体の連携により、身近な地域で気軽にスポーツに親しむ機運を高めていく必要性についての記述を追加しました。	A (全部反映)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
15	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります (文化スポーツ)	現状と課題	メガスポーツイベントの開催に係る現状と課題に「ラグビーワールドカップ2019™や東京オリンピック・パラリンピック競技大会など、メガスポーツイベントを絶好の機会と捉えて、あらゆる主体が連携してスポーツへの関心を高める取組が求められている。」ことを盛り込んではいかがでしょうか。	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を契機とした県出身選手の活躍や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、スポーツへの関心が高まっており、この機を捉え、地域で気軽にスポーツに親しむ機運をさらに高めていくことが必要だと考えています。 御意見を踏まえ、多種多様な主体の連携により、身近な地域で気軽にスポーツに親しむ機運を高めていく必要性についての記述を追加しました。	B (一部反映)
16	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります (文化スポーツ)	③生涯スポーツの普及啓発及び推進体制の強化	「総合型地域スポーツクラブの運営・活動全般の中間支援」とは、具体的にどのような支援を考えているのか。わかりやすい表現にしていきたい。	県では、総合型地域スポーツクラブの活動支援を目的として岩手県広域スポーツセンターを設置し、県内全域を対象に支援を行っているところですが、当圏域で活動している総合型地域スポーツクラブには、事業運営や組織経営などに課題を抱えている団体が少なくありません。 このような状況の下、総合型地域スポーツクラブの制度の見直しに係る国の動向を踏まえ、クラブ間の相互支援や外部の専門家等を活用した相談支援等を行う新たな支援の仕組みを検討していくこととしています。 御意見を踏まえ、具体的な支援の内容について記述を追加しました。	A (全部反映)
17	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります (文化スポーツ)	③生涯スポーツの普及啓発及び推進体制の強化	「指導者の育成」、「指導者の利活用」とは、具体的にどのような取組なのか。明記していただくとわかりやすい。	「指導者の育成」とは、スポーツ指導者や総合型地域スポーツクラブ等の組織運営に携わる者の資質向上を目的とした取組を想定しています。 「指導者の利活用」とは、個々の総合型地域スポーツクラブ等に所属している指導者を他のクラブ等に派遣するなど、団体間で相互支援を行う仕組みづくりを想定しています。 御意見を踏まえ、具体的な取組内容に記載を修正しました。	A (全部反映)
18	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	③生涯スポーツの普及啓発及び推進体制の強化	競技スポーツという観点も入れれば、もっと生涯スポーツの普及啓発になると思うので、競技スポーツの振興を掲げてもよいのではないかと。	競技スポーツについては、政策振興プラン「Ⅲ教育 19文化芸術・スポーツを担う人材を育てます」の「県が取り組む具体的な推進方策」で、「アスリートの競技力の向上」を掲げ、県文化スポーツ部において取り組むこととしています。 御意見については、文化スポーツ部と連携した今後の取組の推進にあたり、参考とさせていただきます。	D (参考)
19	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります	③生涯スポーツの普及啓発及び推進体制の強化	県民のスポーツに対する関心を高めるために、するスポーツの前に、観戦・応援するスポーツを入口にしてみても良いのではないかと。特に、プロスポーツチームと連携することで、県民の連帯感の醸成や地域経済の活性化にも繋がると思う。	ラグビーワールドカップ2019™釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、市町においても「オリンピックデー・フェスタ」の開催や事前合宿の受け入れ、ホストタウンの取組で各国のアスリートと地域住民との交流が行われるなど、スポーツへの関心は高まっています。 県文化スポーツ部において、プロスポーツチームと連携して観戦招待やスポーツ教室、イベントを県内各地で実施しており、スポーツに親しむ意欲の増進や、地元のプロスポーツチームへの親近感や愛着の醸成に取り組んでいるところであり、当圏域には「グルージャ盛岡」と「岩手ビッグブルズ」が活動しており、これらのプロスポーツチームと連携した取組は有効と考えています。 御意見を踏まえ、推進方策に、プロスポーツチームとの連携によるスポーツへの関心の高揚を図る旨の記載を盛り込みました。	B (一部反映)
20	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	2 豊かな環境が保全され、自然の恵みを将来にわたって享受できる地域社会をつくります	②3Rの推進と廃棄物の適正処理の推進	プラスチックごみが社会問題になっているが、プランには「プラスチックごみ」の記載がないが、広域としても何か取り組んでいくのか。	プラスチックごみを含む廃棄物の発生抑制のため、管内市町とともに住民、事業者等に対する普及啓発活動に取り組んでいるほか、ポイ捨てや不法投棄防止のため関係機関と連携して産業廃棄物適正処理指導員による監視指導等に取り組んでいるところですが、「3Rの推進と廃棄物の適正処理の推進」の取組事項として、プラスチックごみの減量化について盛り込みました。	A (全部反映)
21	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	3 歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます	②移住定住の促進	人口減少の問題に対する対策としては、子どもを産み、社会減を減らして、移住・定住を増やすことだと思う。社会減をどう減らして、移住定住をどう促進していくのか。	社会減については、進学・就職期の県外への転出が主な要因となっていることから、地域振興プランの推進方策に、就業支援員や人材育成・定着支援員による就職支援や地元企業とのマッチング支援の強化などを盛り込み、高校生や大学生の県内定着を促進することとしています。また、移住定住施策については、盛岡広域8市町が進める「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」に基づく取組と連携しながら、盛岡広域の魅力や特色などの情報発信を強化していく方向で、地域振興プランに盛り込んでいます。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
22	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	3 歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます	③地域コミュニティ活動の活性化	公共交通について、何をやるのか分からないし、インパクトもない。これから、交通弱者が増えていくなかで、早めに対策をとる必要があるのではないか。	公共交通は県民の暮らしを支えるために重要な役割を担っていることから、振興局としても市町と一体となって持続可能な公共交通ネットワークの形成に取り組む必要があると考えており、地域振興プランにその旨を盛り込みました。 なお、ご指摘の通り、今後交通弱者が増加していくことの重要性を踏まえ、記載内容の一部を修正しました。	B (一部反映)
23	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	3 歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます	③地域コミュニティ活動の活性化	地域づくりに地域おこし協力隊を巻き込む仕組みは有効と考えるが、協力隊と集落支援員（またはそれに類似する地域住民）と一緒に活動していくことで、協力隊の不安に寄り添えたり、地域づくりの幅が広がると全国の研修に参加した際に聞いた。それと協力隊の定住率を上げ、任期後の支援体制を整えていくことで、地域コミュニティにとって必要な人材に育っていくと思う。 「小さな拠点づくり」については、地区住民に自立した考え方ができるための研修や実践の場を行政も積極的に提供することによって人材が育成されていくと考える。 既存の組織が担い手不足になり活動がカタチだけになっている現状もある。今一度、活動の目的や今の時代背景に合っているのか検証（棚卸し）し、事業の見直しや団体同士の連携などを第三者的立場の介入が必要ではないか。	管内8市町では、地域おこし協力隊員向けの研修会や個別相談を実施し、地域おこし協力隊員のスキルアップやフォローアップを行っているところだ。また、「小さな拠点」づくりを促進していくため、地域振興プランの推進方針に「市町村や地域づくり団体などと連携した普及啓発」を盛り込み、県内外の先進事例や国の支援策に関する情報を積極的に提供していくこととしています。 人口減少・少子高齢化の進行により、地域コミュニティの担い手不足が大きな課題となっていることから、地域住民の主体性を尊重しつつ、地域づくり団体や市町と連携しながら、持続可能なコミュニティの構築に向けた支援を行っていきます。	C (趣旨同一)
24	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	3 歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます	③地域コミュニティ活動の活性化	移住定住施策のなかで、地域おこし協力隊員のフォローを行っていると思うが、各市町が試行錯誤するなかで、地区の住民と地域おこし協力隊の関係づくりをそれぞれ対応しているのではないかと思う。そこを超えて、他の市町ではどのような対応をしているのかについて情報共有・情報交換ができるかスムーズな交流ができるのかなと思う。そういう意味で広域局が果たす役割は、非常に大きいのかなと思う。	管内8市町では、「みちのく広域連携都市圏ビジョン」に基づき、地域おこし協力隊員向けの研修会を実施し、隊員同士及び隊員と自治体職員との情報・ノウハウの共有を図るなど、隊員の活動をサポートしているところだ。また、当局においても、地域づくりに関する研修会を開催するなど、引き続き、関係者が情報交換・情報共有できる場を設定していくこととしています。	D (参考)
25	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	4 過去の教訓を踏まえた防災対策を進めます		管内8市町において、自然災害への相互支援体制の仕組みづくりについて、どのようなものを想定しているのか聞きたい。	管内8市町が進める「みちのく広域連携都市圏ビジョン」に基づき、2020年度末までに大規模・広域災害における相互支援体制を確立するため、広域避難態勢、避難所備蓄品の共同配備・融通の仕組みづくりや、災害復旧・復興に係る支援・受援体制の構築のほか、防災・減災対策に係る共同調査・研究に取り組んでいます。	F (その他)
26	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町のつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	4 過去の教訓を踏まえた防災対策を進めます	①河川改修やダム建設による治水安全度の向上	「河川の整備推進」について、木賊川、岩崎川、北上川、安比川とあるが、ここに松川が入らない理由を教えてください。	一級河川松川については、北上川合流部の整備が必要であることから、地域振興プランに盛り込みました。	A (全部反映)
27	県央広域振興圏	I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域	5 安心、快適な都市環境・生活環境をつくりまします	県以外の主体に期待される行動	県以外の主体に期待される行動の「国」に以下を追記していただきたい。 ・国道4号盛岡南道路の早期事業化	渋滞緩和や岩手医科大学附属病院へのアクセス向上を図るため、国道4号盛岡南道路に関する記載を地域振興プランに盛り込みました。	B (一部反映)
28	県央広域振興圏	II IT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	6 産学官金連携によるIT産業の育成やものづくり産業の振興に取り組まします	⑥地域産業を支える人材の確保	地域の中小企業は県内大学生にとって就職先とはみられてはいない一方で、地域の中小企業においても大卒以上の人材が活躍しているという現状が認識されていない点に課題がある。そのギャップを埋めるのに必要なのは我々企業側の努力だと思うが、県からもインターンシップなど学生と企業をつなぐ機会の創出や企業の改革意識の醸成について支援をいただきたい。	企業訪問などを通じ、インターンシップなど学生と企業をつなぐ機会の創出の働きかけや雇用関係の支援制度の情報提供を行うなど、企業の意識改革を促していきたいと考えています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
29	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します		観光客を誘致するのはいいことだと思うが、外国人・日本人問わずマナーが問題になっている。勝手に農地に入れ、非常に迷惑したことがあるので、そうした対策も考えていかなければならないと思う。	当局では、外国人おもてなしまどめサイト「いわての十手」を作成し、外国人に日本の慣習やマナー等を絵（アイコン・ピクトグラム）で伝えることを推進しています。 今後も、外国人観光客の受入をテーマとしたセミナー等で、「いわての十手」の普及啓発を図るとともに、旅行会社などを通じて旅行者に対しマナー遵守を働きかけていきます。	D（参考）
30	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します（観光産業）	①魅力ある観光地づくりと観光客受入環境の向上	現在、八幡平エリア等への観光については、盛岡駅からのアクセスが主要となっているが、いわて沼宮内駅（新幹線）を活用する観光振興の充実を図る取組を盛り込んでいただきたい。	いわて沼宮内駅は、八幡平エリアから最寄りの新幹線駅であることから、移動時間の短縮等にメリットがあると考えています。 個人観光客が同駅を利用する場合は、二次交通の課題があると認識していますが、団体用バスのモデルコースの乗降駅として当駅を組み込むなど、旅行代理店に当駅の利用を働きかけています。	D（参考）
31	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します	①魅力ある観光地づくりと観光客受入環境の向上	「自然」や「温泉」などの魅力ある資源に関する記載や、沿岸との連携について盛り込んだほうがいいのではないかと。	「自然」や「温泉」については、盛岡八幡平エリアの「強み」といえる観光資源であり、滞在型観光を推進するため、季節毎の魅力を生かした取組を行うことを地域振興プランに盛り込んでいます。 また、広域連携による観光振興を図ることは重要と考えており、宮古一室蘭フェリーを活用した観光ルートの確立やイベントの開催など、沿岸地域との連携についても同様に盛り込んでいます。	C（趣旨同一）
32	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します	①魅力ある観光地づくりと観光客受入環境の向上	外国人観光客は急増しているが、宿泊施設の人材不足は深刻であり、外国人労働者に頼る状況となっている。地元の子供たちに定着してもらうためには、小さい頃から地域に親しんでもらうことが大事ではないかと思う。	人材の地元定着については、高校生や大学生を中心に取組を進めています。が、子供のころから地域に親しむことは重要と考えており、今後の取組の参考とさせていただきます。	D（参考）
33	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します	③国際観光の推進	現段階ではすぐに商売につながらない地域への情報発信を行い、岩手県の良いイメージを醸成していくことも大切ではないかと考えている。 例えば県の欧州向けへの取組については、マーケットとしてはまだまだ可能性という段階ではあるが、自治体レベルで取り組んでいる県が少ないようだ。ここに岩手県が先行して観光PRを行うことによって日本の「岩手」というイメージを定着させることができるかと思う。	欧州等、新たなマーケットの開拓については、全県として魅力を発信していくことが必要と考えており、本庁が中心となって取り組んでいくこととしています。	D（参考）
34	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します	③国際観光の推進	ラグビーワールドカップの関係で、この前鶴住居のこけら落としに行ってきたが、途中でどこかに立ち寄ることもなく、釜石で観光するわけでもなく、ただ盛岡に帰ってきた。実際のワールドカップの際には、釜石には宿泊施設が少ないので、盛岡で宿泊する、飲食するという形が増えるのではないかと。釜石に来た方向への盛岡市周辺の観光をパッケージにしたものがあつたほうが良いと思う。	当局では、ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催で来県する個人旅行者に対し、ICTやSNSを活用して、県央圏域の観光情報やアクセス情報の情報発信に取り組んでいくこととしています。	C（趣旨同一）
35	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します（観光産業）	④スポーツツーリズムの推進	「レガシー」の継承の目的として、大会や合宿の誘致活動は読み取ることができるが、メガスポーツイベントの「レガシー」は大会により生まれた成果を一過性にしない取組によってもたらされる成果であり、適切な表現をお願いしたい。	ご指摘を踏まえ、記載内容を修正しました。	A（全部反映）
36	県央広域振興圏	Ⅱ I T産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します（観光産業）	④スポーツツーリズムの推進	「スポーツアクティビティの開発等を支援」とあるが、支援対象や、どのような支援をするのか明記していただけるとわかりやすい。	スポーツツーリズムにつながる多様な主体によるスポーツアクティビティの開発については、先進事例の調査や誘客のためのプロモーション活動など、必要な支援を講じていきます。また、地域振興プランの記載を一部修正しました。	B（一部反映）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
37	県央広域振興圏	IIIT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-1観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します	④スポーツツーリズムの推進	スポーツツーリズムの推進について、紫波町のトレイルランニング大会、八幡平の七時雨トレイル、盛岡市のマラソン大会など盛岡広域の目玉というものが入ってもよいのではないか。また、8市町の取組を広域としてどのように盛り上げていくのか。	各市町の特徴あるスポーツ大会については、「I1-2生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります（文化スポーツ）」の「現状と課題」に記載しているところです。 広域的な取組としては、他地域から大勢の集客が見込まれるスポーツ大会やイベントを活用したスポーツツーリズムツアー商品の造成や、自然景観などの魅力を活用したスポーツアクティビティの開発等を支援し、地域の特色を活かしたスポーツツーリズムを推進することとしています。 御意見を踏まえ、スポーツツーリズムツアー商品の造成に活用する素材の例として「ヒルクライムやマラソン」を追加記載しました。	C（趣旨同一）
38	県央広域振興圏	IIIT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-2観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します	④海外への販路拡大に取り組む事業者の支援	「海外への販路拡大」の項目があるが、これは岩手県産のようなビジネスパートナーとの連携を強化していく方向だと思う。県では、希望郷いわて文化大使を委嘱しているが、大使との交流関係はどのようになっているか。	食や伝統工芸品等の販路拡大については、県外商談会への出展促進、台湾での物産展の開催及び海外出展に向けた県内事業者向け商談会の開催など取組を進めているところです。現在は希望郷いわて文化大使との交流はありませんが、販路拡大のためには様々なネットワークを活用して進めることが必要と考えており、希望郷いわて文化大使も一つの選択肢として参考にさせていただきます。	D（参考）
39	県央広域振興圏	IIIT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	7-2観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します	①食産業・地場産業事業者の経営改善と中核人材の育成	地域の食産業を盛り上げるのに、大切なのはレストランとそこで働く料理人ではないかと思っている。県内の教育機関で、食産業を盛り上げるためにこうした人材を育成することはできないものか。食材豊かな岩手に、調理やサービスの技術を学びに来るような環境ができると、岩手県の食産業にとって追い風になると思う。	食産業の振興については、次代を担う中核人材の育成に向け、商品の高付加価値化やカイゼンによる生産性向上、若手事業者のプロジェクト支援やセミナー開催などの取組を進めているところです。御意見のあった教育機関における人材育成については、今後の取組の参考とさせていただきます。	D（参考）
40	県央広域振興圏	IIIT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	8米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます	①次世代の地域農業を担う経営体の育成	中山間地域を中心に、農地の集積が進まない現状がある。地元の方だけでは解決できない部分があるので、積極的な支援をお願いしたい。	中山間地域では、農地の引き受け手となる担い手の確保と働きやすい農地の条件整備が課題となっています。 県では、集落営農組織の法人化や地域の実情に応じた排水改良などきめ細やかな基盤整備に取り組むとともに、引き続き、担い手や農地利用の将来像として作成した「地域農業マスタープラン」の実現に向け、地域での話し合いが促進されるよう支援していきます。	C（趣旨同一）
41	県央広域振興圏	IIIT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	8米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます		「銀河のしずく」のたんぱく含有量が基準値に満たない生産者が結構いたと聞いているが、ブランド米として確立させるためには、肥料設計の見直しや土壌分析などを行う必要があるのではないかと思います。県としてどのように考えているか。	「銀河のしずく」の基準値については、実需者・消費者の信頼に応える「品質管理」を実践するため、農産物検査等級や、玄米タンパク質含有率などの品質基準を定めているところです。 県では、高品質、良食味米の安定生産に向けて、リモートセンシング技術の活用などによる品質管理体制の構築や高精度食味分析器を活用した栽培管理など栽培研究会を中心とした取組を進めていくこととしています。	C（趣旨同一）
42	県央広域振興圏	IIIT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	8米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます		「銀河のしずく」について、東京ごはん区とのつながりもあるので、こういう方たちと情報交換を密にしながら、販売対策を検討してほしい。	銀河のしずくの販売対策については、首都圏の米穀販売店で構成する東京都ごはん区と生産者との産地交流会等で情報交換をしながら、首都圏における認知度向上の取組を進めてきたところです。 引き続き、東京都ごはん区等、米穀専門店と情報交換を行いながら、今後の販売対策の参考とさせていただきます。	D（参考）
43	県央広域振興圏	IIIT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	8米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます	②生産性・市場性の高い産地づくり	連日、鳥獣被害の問題が報道で取り上げられているので、鳥獣被害対策をお願いしたい。	鳥獣被害対策については、個体数を適正に管理するとともに、野生鳥獣から農作物を守り、さらに集落に寄せ付けない対策を総合的に実施していくことが重要です。 県、各市町、農業団体等で構成する「盛岡地域鳥獣被害対策連絡会」においては、イノシシやニホンジカ、ツキノワグマなどを対象として、出没や捕獲などの情報共有や、被害防止対策研修会の開催など広域的な対策に取り組んでいます。 県では、これらの取組を支援するため、国庫事業を活用し、猟銃や箱わなによる有害捕獲や、本県で開発した積雪に強い恒久電気さくを設置、地域全体での被害防止活動への助成を行っています。 今後においても、市町村や関係団体と連携し、被害防止対策の充実と強化に努めていきます	C（趣旨同一）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
44	県央広域振興圏	Ⅱ I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	8米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます	現状と課題	「現状と課題」の中で「担い手への農地利用集積面積は、…更なる集積を進めていく必要があります。」とあるが、現状だけではなく課題も記載してもらいたい。	農地利用集積・集約化の課題については、農業就業人口の減少・高齢化や水田整備率の状況など構造的な課題として、地域振興プランに記載しています。 なお、農地利用集積・集約化に向けては、農地の引き受け手となる担い手の確保や働きやすい農地の条件整備などが必要であることから、集落営農組織の法人化や基盤整備など、地域の実態に応じて、支援していきます。	C (趣旨同一)
45	県央広域振興圏	Ⅱ I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	9 森林資源の循環利用促進ともうかる林業・木材産業の構築を進めます		広域圏ごとの取組について、県央広域振興圏の特用林産物の振興の部分に、木炭や山ぶどうの生産振興についても記載してほしい。	本県は全国一の木炭生産県ですが、当管内の木炭生産者数は10名(平成30年度)で、いずれも小規模生産者であることから、地域振興プランに記載はありませんが、生産者から技術的な相談や要望等があった場合は、(一社)岩手県木炭協会と連携しながら、適宜対応していきます。 また、ヤマブドウについても同様には、生産者に対し、引き続き、安定生産に向けた栽培管理等に関する技術指導を実施していきます。	D (参考)
46	県央広域振興圏	Ⅱ I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	9 森林資源の循環利用促進ともうかる林業・木材産業の構築を進めます	①森林資源の循環利用及び担い手の育成・確保	計画的に植林しないと、将来的に建物を建てるための木材が不足することになるので、切れ目なく植樹を続けてほしい。また、和食に関連して炭を使った料理というものも考えられるので、木材の循環という意味で、炭作りを進めてほしい。	切れ目のない植林(造林)については、森林資源の循環利用の観点からも非常に重要なことと考えており、地域振興プランにも、低コスト造林を促進するため、伐採から造林までの一貫作業システムの普及、コンテナ苗の植栽導入などを盛り込んでいます。 また、炭づくりについては、本県は全国一の木炭生産県ですが、主産地は二戸、久慈の県北地域であり、管内の木炭生産者は、10名程度でいずれも小規模生産者となっています。したがって、地域振興プランに記載はありませんが、生産者から技術的な相談や要望があった場合は、(一社)岩手県木炭協会と連携しながら、適宜対応していきます。	D (参考)
47	県央広域振興圏	Ⅱ I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	10地域産業の特性に応じた産業人材の確保・育成とやりがいを持って働くことができる労働環境の整備を進めます		外国人労働者の方に良い環境で働いてもらえるかどうかは、今後重要になってくると思う。プランには、このあたりのことが記載されていないが、今後数年間の間に大きな環境変化が見込まれるのではないかと。	外国人労働者を受け入れる枠組みとなる入国管理・難民認定法の改正案が成立し、来年4月から施行されることとなっていますが、施行に当たっての詳細はまだ不明な点があることから、外国人労働者の労働環境の整備については、国をはじめ、本庁の動きを見ながら、検討を進めたいと考えています。	F (その他)
48	県央広域振興圏	Ⅱ I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	10地域産業の特性に応じた産業人材の確保・育成とやりがいを持って働くことができる労働環境の整備を進めます		県内でも売り手市場に変わり十分に雇用先は確保できていますが、県内にどのような企業があるかという認知や、岩手で暮らすことの魅力の浸透が弱いと感じている。企業側にも負担がかかると思うが、マッチングの観点からもやはり体験型の周知活動が効果あると思うので、そこに特に力を入れていただきたい。また、厚生労働省主催の就職ガイダンスは全国一律のプログラムになっていて、必ずしも現在の県内の就職環境にマッチしていない部分もある。対象者に合わせた県独自のプログラムを多く実施するほうがよいと思う。	県内企業の認知度や岩手の暮らしの魅力の向上を図るため、県内の高等教育機関で開催されるキャリア教育の講師のコーディネートや首都圏での岩手 I T 県人会の開催、企業ガイドブックの作成のほか、県や関係機関の支援制度の周知等により、雇用・労働環境整備の取組を進めているところです。体験型の周知活動(インターンシップなど)や県独自の就職ガイダンスの実施については、今後の取組の参考とさせていただきます。	D (参考)
49	県央広域振興圏	Ⅱ I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	11産業経済活動を支える交通ネットワークを整えます	②沿岸地域の復興・振興を支える道路の整備	今年10月に「北岩手・北三陸道路整備促進期成同盟会」が発足した。その趣旨を考えると、十和田八幡平国立公園と三陸復興国立公園を結ぶ高規格道路について、盛り込むべきではないかと。	県北部の道路ネットワークの強化は、県としてもその必要性、重要性を認識しています。今後の道路ネットワークのあり方について関係市町村とともに検討していきます。	D (参考)
50	県央広域振興圏	Ⅱ I T 産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域	11産業経済活動を支える交通ネットワークを整えます		観光の二次交通や飲酒運転の問題を解決するのが自動運転だと思う。自動運転の技術も少しずつ上がってきていると思う。観光振興にあたり、二次交通が大きな課題になっているが、将来的には二次交通の問題は解決するという前提で観光振興を考えていかないと他の地域に遅れをとるのではないかと。	大船渡線の B R T では、バスに自動運転の実証運行が開始されると承知しています。一般道路での自動運転の実用化までには、技術の問題だけでなく、法律の整備等も含めて、相当の時間を要すると考えており、環境が整ってくるタイミングで検討していきたいと考えています。	D (参考)
51	県央広域振興圏	その他			地域振興プランの策定にあたり、市町村の意見等は反映されているのか。	管内市町に対しては、管内市町企画担当課長会議において、地域振興プランについて説明を行い、意見交換を行いました。また、パブリックコメントの実施を受けて、管内市町に対して通知を発し、プランに対する意見を広く募っています。	F (その他)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
52	県央広域振興圏	その他			県央圏域が今後10年、20年と岩手の県庁所在地としてのポジションを確立していくかは、県北、沿岸地域をどう支援していくであり、地域ごとのアクションプランも必要だと思うが、沿岸、県北とのつながりを重視した振興策が重要になってくるのではないかと思う。	圏域を超えた連携については、ますます重要になってきており、「岩手県民計画（2019～2028）」長期ビジョン第7章においてその重要性を示しているほか、各圏域において、隣接する圏域とのつながりを生かした取り組みを進めていくところです。	C（趣旨同一）
53	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	具体的な推進方策 ④地域包括ケアシステムの構築	地域包括ケアシステムの構築のなかのICTは、医療ネットワークのことと思うが、県が音頭をとって共通のネットワーク作って自治体が協力する体制、県、医療機関、福祉機関が参加する方式がうまくいくと思う。岩手の場合は、沿岸で先行した事例があるが、うまくいってない。中部病院に導入しようとしたが頓挫している。エリアごとに違うシステムではうまくいかない。共通のネットワークでなければうまくいかない。県が音頭をとって、関係機関が加盟する方式をとってほしい。	地域においてICTの活用が進むためには、地域の医療機関や介護事業所などの関係機関が情報連携の必要性を認識し、システムの具体的な機能について協議を重ね合意形成を図った上で多くの機関が参画することが肝要です。また、医療介護情報連携システムの構築に当たっては、県内の医療・介護資源の状況や人口規模などの条件が圏域ごとに異なっており、連携に必要な情報やシステムの機能についても一律ではないことから、県では地域のシステムが将来にわたって持続可能なものとして構築されるよう、地域における協議の場に参画しながら、先行事例の紹介や地域医療介護確保基金を活用した導入経費の補助など、各地域での取組を支援していくこととしており、今後の参考にさせていただきます。	D（参考）
54	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	⑥「i-サポ奥州」の利用促進などを通じた結婚支援対策の推進	i-サポについては非常に期待している。市町や関係団体間の情報交換、連携は是非お願いしたい。結婚は広域でやったほうがよい。利用者を増やしていきたい。情報いただき市民に伝え登録を進めていきたい。最後は結婚、これをやらないと地方創生にならない。	未婚化・晩婚化が進む中、地域で結婚、子育てをする希望がかなえられるよう、結婚支援対策に向けた取組を促進する必要があることから、取組方向に「i-サポ奥州」の利用促進などを通じた結婚支援対策の推進」を盛り込み、結婚希望者に対する出会いの機会の提供等の取組の支援や、市町や関係機関との連絡会議等の開催を通じた、それぞれの取組の情報共有化などの支援を行うこととしています。	C（趣旨同一）
55	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	②地域と連携したスポーツへの参加機運の醸成	えさしクリーンパークについて、今後、花巻～一関間に企業立地が進み、従業員が増えるなかで、健康増進関連の施設が不足している。健康づくり施設に対するニーズは高い。県南にスポーツ施設の整備を検討してほしい。手法として、えさしクリーンパークの活用を検討してほしい。えさしクリーンパークは温水プール、浴場、屋外広場等備え、年間利用者7万人と人気の施設。隣接のいわてクリーンセンターの余熱を利用しているが、水質検査が終了したら施設の利用が終了予定とされている。この施設に健康づくり施設機能を付加して長寿命化し、有効活用するようお願いする。将来に向けた計画にも「施設整備の検討」など含んでほしい。	えさしクリーンパークは、いわてクリーンセンター稼働の際、県が焼却炉の余熱利用モデル施設として、平成7年に整備したものでありますが、平成28年3月に老朽化のため、焼却炉の稼働を終了することに伴い、えさしクリーンパークへの余熱供給が終了することや、屋内温水プールなどの余熱利用施設自体も老朽化が進んでいることから、営業を終了する計画としていたが、地元の皆様からの存続要望にも応え、平成27年9月に県、奥州市、クリーンいわて事業団の3者で施設の取り扱いに関する覚書を締結し、2021年度末までの営業としたものです。 また、覚書では、期限前であっても、大規模修繕を行わなければ利用者の安全が確保できない状況となった際には、その時点で一旦営業を停止し、営業の再開又は終了について3者で協議することとしています。 2022年度以降の利活用について、その後も営業するとなれば、天井、内壁、床などの主要構造、電気設備、空調・排水設備など施設の大規模修繕や、重油ボイラー設備の更新が必要となり、運営費負担も今後増高すると見込まれることから、この施設を県南のスポーツ施設として活用することは難しいものと考えています。	F（その他）
56	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	①事業所等と連携した心と体の健康づくりの推進	自殺について、幸福を謳っている計画である以上、自殺率は下げなくてはならない。ゲートキーパーの養成や相談ワンストップなどががんばってほしい。命を大切にできるようになれば、おのずといじめや暴力も減ってくると思う。	自殺対策については、地域全体で総合的な対策を推進する体制を整備することが重要であることから、取組方向に「事業所と連携した心と体の健康づくりの推進」を盛り込み、ゲートキーパーの養成やハイリスク者早期発見、適切な支援、遺族ケアなどに取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
57	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	①事業所等と連携した心と体の健康づくりの推進	健康寿命をのばしながら、少子化に歯止めをかけ、さらに移住定住の仕組みを持ち込めば、人口減少に立ち向える。亡くなる人を減らし、結婚支援、雇用支援、子育て支援をしていけば、それなりに歯止め策を講じられる。高齢化率を見た場合、65歳で38%、70歳で29%だが、75歳だと22%となる。このような発想で健康寿命対策をしていけば対応できる。県にはいろいろな面でこのような取組の後押しをしてもらいたい。	健康寿命対策としては、全国的に死亡率が高位である生活習慣病予防や自殺対策について、強化していくことが重要であることから、取組方向に「事業所等と連携した心と体の健康づくりの推進」を盛り込み、生活習慣病の発症予防や重症化（再発）予防等に取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
58	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健やかにいきいきと暮らせる地域	1 健やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	③地域医療の確保充実と医療と介護等の連携体制の推進 ⑦子育てしやすい環境の整備	介護士不足、保育士不足について、介護する人の不足が深刻な問題。併せて、保育士の不足も課題。市町村が給料を上げる競争みたいになっている。人材自体が足りない。離職率も高い。対価が見合わない課題が多い。町も頑張るので、一緒になって県も人材確保できるような施策を行ってほしい。	介護士、保育士不足の対策の一つとして、高校生を対象に、将来の進路の選択肢として、介護職や保育職を選択する動機づけを行うことを目的とした進路選択セミナーを開催し、介護や保育の施設見学や現場で従事する職員との意見交換等を実施しているところです。御意見については、介護職・福祉職についての関心を高めていく取組の推進にあたっての参考とさせていただきます。	D（参考）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
59	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	1 健康やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	③地域医療の確保充実と医療と介護等の連携体制の推進	周産期医療が胆江の最大の課題だ。そういう戦術的な課題をどこまで拾って反映させていくかだ。周産期問題、水沢病院小児科問題などがあるが、機能を確保するように現実的な課題解決しないとだ。周産期医療問題は10年前から取り組んでいるが、何も変わらない。地域の責任者が地域に対してどうやっていくかの明確なビジョンを示していかないと進まない。 青森県は総合病院を県立病院とし、きちんとした政策を出した。周産期体制について、岩手県はどこでも子どもを産めますよと、やるという表現をすることが県政ということ。町政はそれに対応していく。具体的なものがあって、医師会も県民も同じ目標を目指しますというものがあればよい。	周産期医療については、分娩取扱医療機関数の減少と近年増加傾向にあるハイリスクの妊産婦等への適正な対応が求められていることから、誰もが安心して出産できるよう基本方向に「周産期医療における医療機関間の診療連携体制の充実強化」を盛り込み、具体的な推進方策「地域医療の確保充実と医療と介護等の連携体制の推進」において、限られた医療資源の中で妊娠リスクに応じた医療機関の役割分担や緊急搬送時の受け入れ体制の連携強化について取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
60	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	1 健康やかに安心して暮らせる地域社会をつくります	③地域医療の確保充実と医療と介護等の連携体制の推進	障がい者歯科診療の充実を図っていただきたい。県内の現状では、医大障害者歯科とみちのく療育園など、盛岡地区に集中している。重度の方の場合、地域の開業医での完結は難しく、県南地域の県立病院等に、その拠点を整備することは急務だと思っている。こうした現状を踏まえた取組・表現を盛り込んでいただきたい。	障がい者歯科診療については、障がい者がリスクに応じて適切かつ円滑に歯科診療を受けられるよう、岩手医科大学附属病院歯科医療センターを中核として、各地域において歯科医療を提供できる体制の確保に努め、平成26年度からは岩手県歯科医師会に委託し、歯科医師を対象とした障がい者歯科治療に係る研修会を開催しています。 麻酔医等専門医が不足している状況を踏まえ、県全体の取組として、障がい者が地域においてかかりつけ医を持ち、歯科治療を受けることができる体制整備を進めていきます。	F (その他)
61	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	2 快適で安全・安心な生活環境をつくります	⑨安全な通行、歩行者の安全確保のための道路整備の推進	県道の歩道整備が進んでいない。防災安全交付金も県は十分じゃない、市は割ときているので進んでいる。岩手県の場合、復興の方に交付金があるが、社会資本整備総合交付金が減っているという事情があると思うが、防災安全交付金、社会資本整備総合交付金をしっかりとることを今後考えないとどんどん減るのでお願いしたい。各市で要望しているが難しいとの答えが続く。是非がんばっていただきたい。	県道の歩道整備は安全な通行と歩行者の安全確保のために重要と認識していますが、本県に必要な社会資本を整備し適切に維持管理していくための予算が十分に確保されていない状況にあることから、政府予算要望や道づくり大会等を通じ、公共事業予算の安定的・持続的な確保を国に対して要望しています。今後も、地方の社会資本整備を着実に推進するための予算の確保について国に提言・要望していきます。	F (その他)
62	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	2 快適で安全・安心な生活環境をつくります	①地球温暖化防止に向けた取組の支援	県として、再生可能エネルギーの何を増やすつもりなのか考え方が必要ではないか。水力発電は問題ないが、地熱発電、果たして進めるべきかどうか整理する必要があるのではないかと。花巻は狭い密集地で無理だと思う。進めるべきか場所限定してやるのか、考える必要があると思う。 太陽光発電が遠野で問題になっているが、景観上、どうしていくか、ゾーニングを含め、県全体で考える時期ではないか。国が禁止しない部分を条例でどこまでできるかという問題もある。ゾーニングを言い始めている自治体は出てきている。景観、斜度などにより制限するなど、考える必要がある。①で「事業者における地球温暖化対策の取組を支援します」と言ってしまうといいのか。環境面にも配慮した適切な支援としたほうがよいのではないかと。風力発電も同様。 市町でも考えないといけないが、県全体で考える時期に来ていると思う。県南エリアになるのか、県全体の話になるのかだが、お考えいただきたい。	事業者における地球温暖化対策の取組については、官民連携による省エネや節電対策等のライフスタイルの意識啓発に向け、多量排出事業者における地球温暖化対策計画の策定支援や「いわて地球環境にやさしい事業所」認定制度の普及拡大等の取組を進めており、御意見の「環境に配慮した適切な支援」については、今後の取組の推進にあたり参考とさせていただきます。	D (参考)
63	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	2 快適で安全・安心な生活環境をつくります	⑦災害に強い道路ネットワークの構築	花巻大曲線について、花巻～沢内間は相当工事してもらっている。地形をみるとどこが崩れてもおかしくない状況。根本解決はトンネル化と思っている。	花巻大曲線については、現在、約2.4km区間を小倉山の2工区として整備を進めており、地域振興プランにおいても「観光地へのアクセス向上や地域の魅力を高めるための道路整備の推進」として盛り込み、トンネル化を含めた改築事業に取り組んでいます。引き続き事業推進に努めていきます。	C (趣旨同一)
64	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	2 快適で安全・安心な生活環境をつくります	⑦災害に強い道路ネットワークの構築	国道107号について、長年経過し、老朽化してきた。県へ要望しているところだが、具体的な対策について考えていきたい。	国道107号の老朽化対策については、緊急性の高い箇所から順次対策を進めているところです。いただいた意見は、今後の道路整備の参考にさせていただきます。	D (参考)
65	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	2 快適で安全・安心な生活環境をつくります	④野生鳥獣等の適正な保護管理	野生鳥獣について、広域局圏域を超えた対策の推進に早期に取り組む必要がある。	野生鳥獣への対策については、「岩手県民計画(2019～2028)」 「長期ビジョン」の取組方向や「政策推進プラン」の具体的な推進方策に「生物多様性の保全」を盛り込み、県として、鳥獣保護管理計画や第二種特定鳥獣管理計画の推進により、個体数管理に取り組むこととしています。 いただいた御意見については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	F (その他)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
66	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります		I L Cについては、「2025年大阪万博」が国家プロジェクトとして日本の科学技術振興にとっての最優先予算確保事案として確定してしまっている以上、調査予算のみが計上されるだけで、日本政府は「参加表明を半永久的に棚上げ」にする方向が事実上決している。よって、I L C関連の記述は全て削除するべきと考える。	I L Cは、本県の10年後の将来像の実現をより確かなものにする重要な取組であることから、「いわて県民計画（2019～2028）」長期ビジョンにおける「新しい時代を切り拓くプロジェクト」にI L Cプロジェクトを掲げており、国際性豊かで、暮らしやすいコミュニティの形成やイノベーションを創出する環境整備に資するものと考えています。 また、9月に設立された、自由民主党I L C誘致実現連絡協議会では、政策横断の国家プロジェクトとしてI L Cを位置付けること、通常の科学技術予算の枠外で措置することなどの決議がなされました。 このようなことを踏まえ、県としては、国の動向を見ながら、関係機関や北海道・東北各県とも連携し、国への要望活動を強化するなど、I L Cの実現に向け、引き続き取り組んでいきます。	F（その他）
67	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	①I L C関係者と住民が共に安心して暮らせる環境の整備	5年間で5千人雇用を考えると、間違いなく外国人労働者が増えるが、その受入体制が課題になってくる。市町村ごとの取組ではもったいない。県南でまとめて取り組んでほしい。例えば日本語学校の取組など、この辺の視点をいれた施策をいれてほしい。医療関係の受診も増えてきている。外国人向けの取組が少し抜けている感じ。インバウンド、観光面だけではなく、日常暮らし外国人の視点をいれてほしい。	I L Cの実現による外国人研究者や地域企業が雇用する外国人労働者などの受入態勢整備は、地域の国際化のため重要な取組であることから、取組方向に「国際リニアコライダー（I L C）関係者等と住民が共に安心して暮らせる環境の整備」を盛り込み、居住環境や生活における各種手続きが円滑に進められるよう受入態勢整備に取り組むこととしています。なお、外国人の受入態勢整備は、観光面のほか、教育や医療など、生活の幅広い分野に及ぶことから、受入態勢整備に係る市町の取組のほか、県全体の取組とも連携し総合的に推進するものです。	C（趣旨同一）
68	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	コミュニティ交通について、地域内でバス停や地区センターまでの移送を考えているが、規制や運転手不足でなかなかできない実情。岩手県内の移動は自分で運転できるうちは自由だが、免許返納しての移手段の確保が必須。市は拠点間の移送を重点にがんばるので、コミュニティ内での移手段確保等について、積極的な支援をお願いしたい。従来の公共交通の枠を超えた発想の検討をお願いしたい。	地域公共交通ネットワークの構築については、地域における県民の暮らしを支える公共交通を守る上で重要であることから、政策推進プランの具体的な推進方策に「広域バス路線や鉄道路線の維持・確保」「地域の実情に応じた効率的な公共交通ネットワークの構築支援」を盛り込み、全県の取組として地域公共交通の維持・確保や、住民のニーズに対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築を促進していくこととしています。また、地域振興プランでは、持続可能な公共交通ネットワークの形成に向けた取組について盛り込み、市町が実施する地域内交通の利用促進等の取組を支援するなど、市町と連携して取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
69	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります		この地域の地域性としては、秋田県との連携交流、特に横手市とのつながりが大きく、文化など共通するものがある。このつながりを保っていきいたいし、これが西和賀の特色でもある。県境市町における隣県との交流連携の支援をお願いしたいし、県もその背景を作っていくしてほしい。	宮城県や秋田県との連携・交流については、これまでも観光振興等の共通課題の解決に向け、情報交換や意見交換を行ってきました。「いわて県民計画（2019～2028）」の「長期ビジョン第7章地域振興の展開方向」では、4広域振興圏や県の区域を越えた広域的な連携の強化について盛り込んでおり、今後においても、市町との連携や宮城県及び秋田県との連携・交流の取組を推進することとしています。	C（趣旨同一）
70	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	公共交通のあり方について、今後人口減少が進むなかであり方の変化は今後も加速していくのは避けられない。高齢化が進んでいる地域なので、地域住民の足を支えなければいけない。閉じこもって動かないことが健康面にも影響する。用足しに出かけることが健康維持につながると言われている。車を運転できない人も外出するチャンスを与えるような公共交通を確保することが町の役割なので、支援をお願いしたい。町だけでは限界があるので、山間僻地の生活の支援をお願いしたい。高齢化が進んでいる西和賀町が先事例となると思う。	地域公共交通ネットワークの構築については、地域における県民の暮らしを支える公共交通を守る上で重要であることから、政策推進プランの具体的な推進方策に「広域バス路線や鉄道路線の維持・確保」「地域の実情に応じた効率的な公共交通ネットワークの構築支援」を盛り込み、全県の取組として地域公共交通の維持・確保や、住民のニーズに対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築を促進していくこととしています。また、地域振興プランでは、持続可能な公共交通ネットワークの形成に向けた取組について盛り込み、市町が実施する地域内交通の利用促進等の取組を支援するなど、市町と連携して取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
71	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	「地域づくりを進める市町の取組支援」について、市町の取組支援だけでは、地域づくりの推進は困難。市長と語ろう会の意見でも各所で同様の意見があった。指定管理者制度導入にはモデル事例による検討も必要で、県のリーダーシップをお願いしたい。	地域コミュニティについては、政策推進プランの「IV居住環境・コミュニティ 23つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てます」において、持続可能な地域コミュニティづくりを促進することとしており、全県的な取組のなかで、県南圏域においても取組を進めていくものです。	C（趣旨同一）
72	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	地域内交通は利用促進もさることながら、運転士不足が顕在化。公共交通そのものの維持が困難な状況。市町村を越えた新たな公共交通の取組など、県主導による仕組みづくりの検討が必要ではないか。	市町村域を越えた公共交通の取組については、今年度、「岩手県地域公共交通網形成計画」を策定することとしており、同計画に基づき、全県の取組として「広域バス路線や鉄道路線の維持・確保」「地域の実情に応じた効率的な公共交通ネットワークの構築支援」に取り組み、運転士不足への対策など、持続可能な公共交通ネットワークの構築を促進していきます。	C（趣旨同一）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
73	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	①国際リニアコライダー（ILC）関係者等と住民が共に安心して暮らせる環境の整備	ILCについて、状況が変化してきているが、このままの記載でいくのか。ILCについては、他の圏域でもプランに掲載しているのか。	外国人の受入態勢整備や多様な文化・生活習慣の違いの理解促進などの取組は、ILCの実現などにより地域の国際化が見込まれるなかで着実に進めていく必要がある取組と考えており、「いわて県民計画（2019～2028）」の10年の計画期間のなかで、地域の国際化の進展状況に応じながら取組を進めていきます。また、ILCの実現を見据えた外国人の受入態勢整備や港湾の活用促進について県央広域振興圏及び沿岸広域振興圏の地域振興プランに盛り込まれています。	F（その他）
74	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	JR東北本線について、北上以南が1時間に1本の運行であり、不便。以前からの懸案。どこかで読み取れるように盛り込んでほしい。	JR東北本線については、地域の意向をダイヤ編成等に反映することにより、利用者の利便性向上を図ることが重要であると考えており、毎年度、市町村等の要望を県が取りまとめ、JR東日本盛岡支社に対して要望書を提出しており、より地域の意向がダイヤ編成等に反映されるよう対応していきます。	F（その他）
75	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	エリアということについて、一関市は県境を意識していない。南を向いている。日常生活圏、通勤圏、通学圏は、登米市、栗原市が含まれる。医療圏も栗原市、登米市から磐井病院に救急搬送される。ところが岩手県の医療関係データには宮城県からの数字が入らない。岩手県だけで整理されてしまっている。一関市に関しては日常生活圏がどうなのかを考えれば県境で線引きするのは役に立たない。エリアについて、画一的ではなく地域実情に合わせて考えてほしい。 一関市は宮城県北との交流が不可欠で、文化、歴史、特に食文化など、重なりあっている。地域の歴史文化が重なるなかで、地域課題を解決するのがいいと思う。歴史、文化、日常生活圏、医療が重なるところが連携して地域課題を話し合い、解決策を講じるのが一番実効性あり、一関市はそれをやっている。 地域の大きな課題は県境エリアであること。国の出先機関が撤退してしまった。同様に宮城県北も同じ傾向である。県庁所在地に集中傾向になっている。このエリアに国の出先機関が何もなくなる時代がくるが、歴史的に見て深いつながり、共通項がある地域同士だと施策がやりやすいし、つながりを活かした展開をしていくことが地域住民にプラスになると思う。	広域振興圏の振興に当たっては、地域が置かれている状況や地域資源の特性をとらえ、施策を講じることとしており、隣接する県との連携や交流がある市町の実情を踏まえながら、地域課題の解決に向けた取り組みを推進することが重要であることから、具体的な推進方策の「持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援」の取組について、「市町や県の区域を越えた広域的な課題解決の取組を推進します。」に表現を変更しました。	A（全部反映）
76	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	具体的な推進方策 ①ILC関係者と住民が共に安心して暮らせる環境の整備	ILCについて考えると、一関の場合、仙台を向く。仙台の都市機能を活用しないことには物事が動かない。 プロジェクトに、ILCのことも書いてもらっているが、ILCの進展について、時系列で整理してもらおうとよい。項目ごとにはわかるが、戦略としてはもう少しシャープさがあってよい。 トンネル掘削までに何年調査期間があるのか、トンネル掘削に何年かかるか、加速器インストールが何年、試運転が何年、そして本格稼働というように整理してもらおうとよい。 その段階ごとに来る人に合わせて受入体制を考えないといけない。いきなり技術者は来ない、まず、土木作業員が来る。トンネル工事が終わるころに、技術系の研究者が来て、加速器インストールの準備をすることになる。	2019年から2022年までの計画である第1期地域振興プランでは、ILCの実現を契機とした外国人の受入態勢整備について、地域の国際化のために重要な取組と位置づけ、取組方向に「国際リニアコライダー（ILC）関係者等と住民が共に安心して暮らせる環境の整備」を盛り込み、居住環境や生活における各種手続きが円滑に進められるよう受入態勢整備に取り組むこととしています。 ILCについては、長期のプロジェクトであることから、ILCが実現するまでの段階に応じた取組の展開が必要であり、ILCの進展段階に応じ、地域に求められる施策を明確にし、市町及び県本庁と連携しながら取り組んでいきます。	D（参考）
77	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	コミュニティについて、高齢化が進み、交通手段とか、空き家対策をどうするか、買い物できない、選挙に出てこられない、消防車が入らない、通勤できないなど、いろいろな課題が出てくる。 この課題について究極に突き詰めれば、市町、県としてどうすればよいかというと、コンパクトシティが考えられる。町場に移住してもらおうと行政サービスはやりやすいが、山間部はさびれる。そのあたりを将来どうやっていくかが問題だ。そろそろこの時期にある程度、将来そのような問題が生じることを、総合計画のなかで県民に対してメッセージを出しておくべきではないか。	人口減少及び高齢化については県の大きな課題であり、市町と一体となり対策を推進することが重要です。地域振興プランでは重点施策項目に「一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります」において、人口減少や少子高齢化による地域コミュニティ機能の低下や担い手不足を課題に挙げ、取組方向の「持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援」において、住民等による自主的な地域課題解決の取組や地域づくりを進める市町の支援、地域交通の利用促進及び地域コミュニティを担う人材の育成などの取組を盛り込みました。 地域振興に当たっては、変化する市町の実情を踏まえながら、課題分析を行い、施策を推進していくこととしています。	D（参考）
78	県南広域振興圏	I多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくります	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	交通について、一関市ではデマンド型タクシーを4か所やっており、今後増やしていく。このやり方が住民ニーズと合致している。宮城県北地域は市営バスしかなく料金も安い。一関市に乗り入れして、均衡を考えなければいけない。住民にとっては、細かいところに手が届く行政が希望で、行政としては、それに応えられるようなところを持っていないといけないと思う。	地域における県民の暮らしを支える公共交通の維持は重要であることから、政策推進プランの具体的な推進方策に「広域バス路線や鉄道路線の維持・確保」「地域の実情に応じた効率的な公共交通ネットワークの構築支援」を盛り込み、全県の取組として地域公共交通の維持・確保や、住民のニーズに対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築を促進していくこととしています。また、地域振興プランでは、持続可能な公共交通ネットワークの形成に向けた取組について盛り込み、市町が実施する地域内交通の利用促進等の取組を支援するなど、市町と連携して取り組むこととしています。	C（趣旨同一）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
79	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	3一人ひとりがいきいきと生活できるコミュニティをつくりまします	②持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援	若者の定着について、一関地域は高等教育機関がないため、進学者は一度県外へ出てしまうのは仕方ないが、それをどうしたら戻せるかを考えている。若者とふるさとをつなぐ何かをほしいと思う。一関はそれを「歴史・文化」に求めて、若者に対して強く意識してもらおう取組をやっていく。	若者等の地元定着は地域振興のために重要な事項と認識しています。また、若者とふるさとのつながりは、県外に出た若者が地元に戻るきっかけとなるものと考えており、郷土愛の醸成などの取組が重要です。 地域振興プランにおいては、取組方向に「移住・定住の促進」や「持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援」を盛り込み、総合的なU・Iターン対策や地域の伝統文化・民俗芸能とふれあう機会の創出などの郷土愛の醸成につながる取組を展開することとしています。	D (参考)
80	県南広域振興圏	I 多様な交流が生まれ、一人ひとりが生涯を通じて健康やかにいきいきと暮らせる地域	指標項目		政策推進プランでは、政策項目「37収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくりまします」の、県が取り組む具体的な推進方策として「⑤鳥獣被害や松くい虫・ナラ枯れ被害の防止対策の推進」が記載され、指標の一つに「ニホンジカの捕獲数(頭)」が記載されている。 県南圏域でも野生鳥獣による農作物被害は深刻な問題であり、野生鳥獣による農作物被害を防止・軽減するためには、狩猟登録者の維持はもちろんのこと、新規狩猟者の確保が重要な視点になると考える。 このため、指標項目候補に「新規狩猟者登録件数」を加えた方が良いと考える。	野生鳥獣による農作物被害等の防止・軽減のためには、野生鳥獣の個体数管理を担う狩猟者の育成・確保が重要であり、取組方向として「野生鳥獣との適正な保護管理」を盛り込み、狩猟者の育成を推進することとしており、新規狩猟者の育成状況は、工程表の指標として「新規狩猟免許取得件数」を設定し、取組の進捗管理を行うこととしています。	A (全部反映)
81	県南広域振興圏	II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域			雇用推進について、東京・仙台、県内での面談会の開催増をお願いする。	就職面接会や県内の企業等の情報を提供する懇談会などの取組は、人材確保のため重要な取組であり、これからも(公財)ふるさといわて定住財団やジョブカフェ岩手と連携し、首都圏や仙台、県内で開催することとしています。ご要望の開催数の増については、今後の取組の参考とさせていただきます。	D (参考)
82	県南広域振興圏	II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	4ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます	④産業を振興する道路整備の推進	橋梁整備でお話している国見橋については、北上市、金ケ崎町、奥州市も使える、産業振興に使える橋、という意味で、県で進めていただきたい。内陸と沿岸を結ぶ必要な資源と捉えてほしい。産業・物流上の有効な資源となる。県南局で先行して検討してほしい。	新たに北上川を渡る橋梁のあり方については、広域的な検討が必要と認識しています。いただいた意見は、今後の道路整備の参考とさせていただきます。	D (参考)
83	県南広域振興圏	II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	4ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます	①地域企業の技術力向上及び技術革新を含めた生産性向上の支援 ②自動車・半導体関連産業へ一層の参入促進及び国際リニアコライダー(ILC)の関連技術や第4次産業革命(IOT等)の新技术を活用した取組の支援 ③伝統産業の振興 ④産業を振興する道路整備の推進	北上川バレープロジェクトについて考えた場合、II 4の「ものづくり」の県の取組と県以外のところだが、県の取組は①～④に限定されている。これで十分なのか。もっと踏み込んでほしい。市町の役割に「企業誘致活動の推進」「企業立地環境の整備促進・・・」があるが、ここは県は何もしないのか。県の役割でもあるので、具体的な推進方策のなかに県がやるという旨を入れる必要があると思う。県に対する期待はもっと大きいはず。もう少し充実してもよいと思う。実際にやっていることはあると思う。	企業誘致活動の推進や企業立地環境の整備促進等については、全県的な課題であり、政策推進プランの取組方向「33国際競争力が高く、地域の産業・雇用に好循環をもたらしものづくり産業を盛んにします」に基づき、本庁と広域振興局が一体となって取り組むこととしています。 なお、地域振興プランでは、誘致企業を下支えする地場企業に対して、新規参入、取引拡大及び生産性向上の支援に取り組むこととしています。	F (その他)
84	県南広域振興圏	II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	4ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます		遠野東工業団地は県の支援をいただき2021年には完成。広域的に考えないといけない。場所、道路事情からすると、陸前高田、大船渡、住田、釜石、大槌、山田、宮古といったところが関連エリアとなり、遠野東工業団地は扇の要になる。県南と沿岸との連携をしなければいけない。ものづくり拠点にもなりうるので、その辺も考慮してもらいたい。	ものづくり産業における企業間の取引拡大等の支援については、県南エリアに限らず、広域的な取り組みが必要なことから、本庁、他の広域振興局等と連携を図りながら企業間のマッチングや共同受注に対する支援などの取組を進めているところです。	F (その他)
85	県南広域振興圏	II 世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	4ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます	④産業を振興する道路整備の推進	道路網の整備の関係について、通勤は50キロを通勤距離とすると決め、道路網を整備して、工業団地企業や中小企業への就職を進めるなど、具体的なものがないと進まないと思う。物流面では、秋田港、釜石港など、コンテナ対応輸送体制をどうするのかも課題となる。	道路網の整備については、取組方向に「産業を振興する道路の整備」を盛り込み、物流の基盤となる道路を整備することとしています。いただいた意見は今後の道路整備の参考にさせていただきます。 港湾へのコンテナ対応輸送については、港湾利用者等の意向を踏まえ検討していきます。いただいた意見は今後の道路整備の参考にさせていただきます。	D (参考)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
86	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域 Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	4ものづくり産業の集積を進め競争力を高めます 6地域の魅力の発信による交流を広げます	④産業を振興する道路整備の推進 ⑤観光地へのアクセス向上や地域の魅力を高めるための道路整備の推進	沿岸部とのアクセスについて、ほとんどの人が復興支援道路に国道343号、284号が入ると思っていたが入らなかった。新笹ノ田トンネルは9万人の署名が集まり、陸前高田市からも2万集まった。毎年要望しているが、県からの回答は説得力がない。これからは新トンネル実現ではなく、調査をお願いするという要望にしたいと思う。	新笹ノ田トンネルの建設については、多額の事業費を要することが見込まれ、安定的な事業予算の確保が課題となることから、今後の復興道路等のネットワーク完成後の交通需要の変化などを把握しながら必要性の検討を行っていきます。 いただいた意見は今後の道路整備の参考にさせていただきます。	D (参考)
87	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域 Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	4ものづくり産業の集積を進め、競争力を高めます 6地域の魅力の発信による交流を広げます	④産業を振興する道路整備の推進 ⑤観光地へのアクセス向上や地域の魅力を高めるための道路整備の推進	産業振興道路の整備推進、観光地へのアクセス道路の整備推進とあるが、県南管内は交通利便性がよいのが特徴と思うので、国道4号の4車線化の推進をお願いしたい。交通網整備は、企業集積や観光振興にとっても重要な事項である。 国道4号整備は、もはや部分的にやる話ではない。国道4号は物流拠点として重要な位置づけになっているのだから、国として進めるようお願いしたい。	一般国道4号については、当県の産業を振興し観光地へのアクセスを向上させる重要路線であり、円滑な交通を確保することが重要であることから、地域振興プランにおいても「県以外の主体に期待される行動」において国道4号の整備を盛り込み、政府予算要望を通じ、4車線化等の整備促進を国に対して働き掛けることとしています。	C (趣旨同一)
88	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	5ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	①人材確保に向けた地域企業や事業所のみ魅力向上	就職に際して親御さんたちの声をきくと、安心して暮らせるアパートや寮など、宿舎面を心配している。個別企業で対応するのは難しいので、企業と行政と一緒にしたしくみをつくれぬか。民間が独身寮などをつくりやすいしくみを構築できないか、検討してほしい。	住宅確保については、地域企業の人材確保や若者の地元定着のために必要なものであり、全県的な課題として、国に対して、政府予算要望において、若者の住環境の整備や住宅手当の導入の支援について要望しているところです。	F (その他)
89	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	5ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	①人材確保に向けた地域企業や事業所のみ魅力向上	人手不足について、今後、先進技術が進行するなかで、高度人材などピンポイントで集められる情報発信ポータルサイトがあるとよい。県と市町村とで運営するやり方をすれば信頼度が増す。岩手で働く選択肢を広げられるような工夫をもっとしてほしい。例えば、30代や定年間際の人達が、そのサイトで岩手に来ことを決断できるようなものがよい。人手不足に対して、岩手県をまとめてアピールするしくみについて具体的な検討をしてほしい。	高度人材の確保やU・Iターン就職を促進するための情報発信のしくみづくり及び市町村と連携したU・Iターンの促進については、県南エリアに限らず、県全体での取り組みが必要なことから、政策推進プランの具体的推進方針に「ものづくり産業人材の育成・確保・定着」を盛り込み、U・Iターンの促進による人材確保・定着に取り組むこととしています。	D (参考)
90	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	5ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	①人材確保に向けた地域企業や事業所のみ魅力向上	計画内容が「産業関係団体や企業への要請」、「働きやすい労働環境の整備の促進」、「地域企業の情報発信」となっているが、人材不足は深刻な問題。4号線沿いの企業の大量採用などによって、地場の雇用情勢は大変厳しい状況にある。若者の住環境や生活環境といった就業環境以外にも含めた取組について、検討が必要である。	若者の住環境の整備については、地域企業の人材確保や若者の地元定着のために必要なものであり、全県的な課題として、国に対して、政府予算要望において、若者の住環境の整備や住宅手当の導入の支援について要望しているところです。	F (その他)
91	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	5ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	①人材確保に向けた地域企業や事業所のみ魅力向上	人材確保が課題。地元人がいなくて花巻北上方面から来ている。立丸峠の開通で、もしかすると川井方面からも来る可能性ある。広域のくくりで考えないといけない。せっかく企業の動きがあるのに対応できないとうまくないので、人材確保のための具体的な取組の部分があるとよい。	復興支援道路の整備により圏域を越えた通勤も可能であることから、管内市町、盛岡・沿岸広域振興局との連携を深め、高校生や若者へのきめ細かな情報発信を行い、企業の人材確保を支援していくこととしています。	D (参考)
92	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	5ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	①人材確保に向けた地域企業や事業所のみ魅力向上 ②若者の職業意識、地元志向の醸成	人材確保をどうするかが県南局の最大の課題だと思う。県内だけでは充足しない時代。	県南地域は、産業集積を背景とし働く世代の活躍が見込まれる地域であり、人材確保の取組が重要であることから、取組の方向に「若者の職業意識、地元志向の醸成」を盛り込み、就職後の新規高卒者の職場定着の支援やキャリア教育による若者の就業意識の醸成により県内の人材の確保に取り組むとともに、県外向けには、U・Iターン希望者への地域企業の情報や就職情報提供に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
93	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	5ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	②若者の職業意識、地元志向の醸成	県南のものづくりに携わる高校生をちゃんと育てていく、というのがあっても良いと思う。「若者の職業意識、地元志向の醸成」だけではなく、人材として確保するということがあってもいいのではないかな。	ものづくりをはじめとする地域産業の担い手となる高校生の人材育成や地域産業の人材確保は産業集積の進む県南地域ではより重要と認識しており、ものづくりネットワークによる企業等との連携によりキャリア教育や高校生の技術力向上のための取り組みを行っており、併せて企業の魅力向上ときめ細かな情報発信により、地域企業の人材確保を支援していくこととしています。	C (趣旨同一)
94	県南広域振興圏	Ⅱ世界に誇れる産業の集積を進め、岩手で育った人材が地元で働き定着する地域	5ライフスタイルに応じた新しい働き方ができる環境づくりと人材育成による地元定着を促進します	②若者の職業意識、地元志向の醸成	来年度は、県立高校の進路指導の先生に対してアプローチしていく。市町村が高等学校はなかなか踏み込めないが、一関はジョブカフェ一関でキャリア教育やっており、高校と連携が取れているので、進路指導の先生に対して、もうちょっと地元から出さない施策を働きかけたいと思っているので県にも協力してもらいたい。	県南地域における人材確保のため、若者の地元定着の促進が重要であることから、取組方向に「地域企業の理解促進や高校生の資格取得支援」を盛り込み、引き続き、教員向け企業見学会を実施するほか、高校や一関高専を会場に、生徒・学生・保護者を対象とした企業ガイダンス等を開催するなど、市町や関係機関と連携しながら、若者の地元就職の促進に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
95	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	6地域の魅力発信による交流を広げます	①世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした広域的な周遊・滞在型観光の促進	世界遺産「平泉」だけではなかなか集まらない。例えば、北上市・西和賀町・横手市関連では、秀衡街道や国見山廃寺などもあり、平泉につながる資産をネットワークで捉えて観光資源に活用するほうがよい。そのほうが旅行者も広がりが出てくるのではないかな。各地に関連するものがあると思う。	広域的な周遊・滞在型観光を促進するためには、地域ならではの歴史・文化、自然などの観光資源を活用し、圏域全体の魅力を高めることが重要であることと認識しており、御意見のありました「平泉につながる資産をネットワークで捉えて観光資源に活用すること」について、今後の取組の推進にあたり参考とさせていただきます。	D (参考)
96	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	6地域の魅力発信による交流を広げます	③教育機関や国際リニアコライダー（ILC）との連携による海外との相互交流の促進	ILCについては、若干、推進運動の見方を変えなくては、と思う。今まで文科省を窓口としていたが、産業面からアプローチするように経済産業省とかを窓口として展開する方向にシフトしたほうがよいのではないかな。	ILCの実現は、基礎科学の研究に飛躍的發展をもたらすとともに、世界最先端の研究を行う多くの人材が定着・交流する国際科学技術イノベーション拠点の形成や、精密実験を支える先端産業の集積につながり、科学技術創造立国の実現や高度な技術力に基づく、ものづくり産業の成長発展に大きく寄与し、日本再興や地方創生にも資するものです。 このことから、県としては、関係団体と連携し、文部科学省だけではなく、経済産業省や内閣府等の関係省庁にも要望や説明を行っています。 引き続き、ILCの実現に向け必要な取組を推進していきます。	F (その他)
97	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	6地域の魅力発信による交流を広げます	①世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした広域的な周遊・滞在型観光の促進	花巻空港をどうするかは全県マターになるが、地域プランにどこまで踏み込めるかだ。県計画だと国内と国際と併せて促進と書いてあるが、今は搭乗率非常に良い。今後どうするかだが、国内での花巻空港のあり方を戦略的に考えてほしい。単に直行便の国際便を呼ぶだけでなく、新千歳などハブ空港とつながる国内線利用を併せて考えてほしい。北東北を周遊する場合、花巻空港が使いやすく中央になる。	いわて花巻空港との間で国内定期便が運航され、国際線が多数就航している新千歳空港や福岡空港からの乗入を強化することは、特に個人の外国人観光客の誘客に有効な取組の一つと考えています。 御意見いただいた、いわて花巻空港の東北周遊に係る立地の優位性のPR等も含め、県全体の取組として航空会社と連携しながらいわて花巻空港の利用促進に取り組んでいきます。	D (参考)
98	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	6地域の魅力発信による交流を広げます	①世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした広域的な周遊・滞在型観光の促進	秋田自動車道の4車線化について、秋田は力を入れているようだ。山形自動車道と東北中央自動車道の整備が進むと、西側から人が流れてくるので、これらをキャッチするような県際交流を県レベルで取り組んでほしい。北上への企業集積に秋田は注目している。高速道が繋がれば仙台からも人が流れて来る。うまく交流連携に取り組んでもらいたい。	平泉を核とする周遊・滞在型観光の促進にあたっては、圏域全体の魅力を高め、他圏域も視野に入れた取組が必要であると認識しており、県際地域を含め他圏域と連携して取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
99	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	6地域の魅力発信による交流を広げます	①世界遺産「平泉の文化遺産」を核とした広域的な周遊・滞在型観光の促進	文言としては入れていないから推進しないということではないと思う。農業遺産の取組は、この地域が活力を得て、農業遺産を目指すということで、再チャレンジし、活力ある地域にしていく。世界遺産の取組は、最終的に世界遺産を後世に伝えるための周辺環境、産業、人々を引き継いでいく、将来につなげていくということだから、世界遺産の推進も、トータルとしてはここに含まれると理解している。 細部でどういう取組をしていくかが、きちんとあればよし、お互いが共有できていればよいことだと思う。振興局、奥州市、平泉町、一関市と取り組んでいるので、引き続きよろしくお願ひしたい。	世界農業遺産の認定に向けては、一関市、奥州市、平泉町、県等で構成する「東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会」が中心となり、認定を契機とした東稲山麓地域の活性化を目的として取組を進めています。取組方向の「企業や都市住民等と農村との協働・連携活動の促進等による農村地域の活性化」において、県としても、引き続き、3市町と緊密に連携を図りながら、認定に向けた申請書作成のほか、企業・ボランティア等との連携による地域活動、都市農村交流、情報発信等による関係人口の創出などの取組を積極的に支援していきます。	C (趣旨同一)
100	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	6地域の魅力発信による交流を広げます	②国内外からの観光客、国際リニアコライダー（ILC）の研究者やビジネス客等の受入に係るホスピタリティ向上	受入環境の体制づくりを掲げているが、県全体の観光客が震災前の71.8%という状況（観光客ベース）から、新たな魅力創出が必要。	当圏域では、この地域ならではの歴史・文化、自然などの観光資源を活用し、圏域全体の魅力を高めることが重要であると認識しており、御意見のありました新たな魅力創出について、観光資源の磨き上げや地域食材を生かした食や体験メニューの提供等により取り組むこととしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
101	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	6地域の魅力発信による交流を広げます	⑤観光地へのアクセス向上や地域の魅力を高めるための道路整備の推進	「県内各地を周遊する道路整備」とあるが、ハード整備だけではなく、ネットワークづくりのためのソフトの構築が必要。 釜石道全通、立丸峠供用開始もあり、三陸縦貫道も出来てきているので、道路ネットワークづくりなどのソフトも必要ではないか。	平泉を核とする周遊・滞在型観光を促進していくには、沿岸を含め他圏域と連携した取組が必要であることから、企業等研修や教育旅行の誘致に当たり、沿岸と連携して取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
102	県南広域振興圏	Ⅲ世界遺産「平泉の文化遺産」をはじめ多彩な魅力の発信により多くの人々が訪れる地域	7食産業のネットワークを活用し交流人口の拡大を図ります	②国内外への取引拡大の推進	輸出について、米など農産物をどうするか。米は国内市場での需要があり、海外に出す必要がない。りんごも人気で、出したくても量が少ない状況。今は輸出する必要はないが、将来見据えて何かやる必要あるかどうか。	海外市場については、縮小傾向にある国内市場に変わる新たな市場として注目が高まっていることから、輸出に取組む生産者・事業者を対象に輸出の商談スキルの向上支援を推進しているほか、農産物の輸出については県全体の取組方向を踏まえながら取り組むこととしています。	D (参考)
103	県南広域振興圏	Ⅳ米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9企業の経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	具体的な推進方策 ④畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進	市場では和牛のランクA4、A5ランクではないものが求められている感じがしている。生産者は高く売るためにA4、A5を生産しているが、消費者からは量を求められている。量産ができないし、生産者も高齢化しなかなか作れない状況だが、それでもA4、A5ランクの強化をするのかを見極める時期ではないかと思う。	肉用牛については、飼養戸数が減少傾向にある中で、産地として生産出荷頭数の維持・拡大と消費者ニーズに応じた肉質確保が重要であることから、取組方向に「畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進」を盛り込み、肥育素牛の経営内一貫生産や地域内一貫生産体制整備を促進するとともに、関係機関・団体から構成される肉用牛サポートチームを中心とする技術、経営改善支援などにより、肉牛産地の収益性向上に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
104	県南広域振興圏	Ⅳ米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9企業の経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	⑥協働・連携による農村地域の保全・活性化	農村活性化は大事な視点。大規模は大規模でやらねばだが、中山間地域、兼業農家を守らないとコミュニティが維持できない。是非取組をお願いしたい。	中山間地域の農業を維持していくためには、地域の担い手だけでなく、多くの住民が参画した地域ぐるみの取組が不可欠であることから、取組方向に、「小規模兼業農家も参加する地域ビジョンの策定と実践活動の支援」や、「日本型直接支払制度を活用した地域協働による農地・水路等の保管理」、「農作業の省力化・軽労化に効果的なスマート農業技術の導入支援」等を盛り込み、住民が多様なスタイルでいきいきと暮らせる中山間地域の実現を目指すこととしています。	C (趣旨同一)
105	県南広域振興圏	Ⅳ米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9企業の経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	②競争力の高い米産地の育成	「銀河のしずく」の概算金が、ひとめぼれより安くて、イメージが悪い。おこめきょうだいのキャラクターあるが、「(「こんじっち(金色の風)」「ぎんがっち(銀河のしずく)」「ひとめっち(ひとめぼれ)」「こまっち(あきたこまち)」「いわてっち(いわてっこ)」「どんびっち(どんびりゃり)」「金色の風」と「銀河のしずく」を「ひとめぼれ」などと同列で扱っている。差別化する戦略だったのに、差別化できないのではないか。	「金色の風」「銀河のしずく」については、県産米の評価を一層高めるけん引役として、早期にブランドを確立することが重要であることから、「いわてオリジナル品種ブランド化戦略」に基づき、「栽培研究会を通じた品質と食味向上技術の徹底」や、「米卸業者や飲食店、発信力の高い企業等と連携したPR活動の実施」等に取り組む、「金色の風」は全国に誇る最高級米として、「銀河のしずく」は県内外から広く愛されるお米として、消費者や実需者の評価を一層高めるとともに、米生産者の所得向上を図ることとしています。	C (趣旨同一)
106	県南広域振興圏	Ⅳ米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9企業の経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	⑥協働・連携による農村地域の保全・活性化	どうしたらよいか難しい。単独でいろいろやっているが、ハンター不足が問題。わなで捕獲した後の処理も困難。他の捕獲方法を研究しないと、これ以上捕れないと思う。	野生鳥獣等の適正な保護管理にあたり大きな役割を担うハンターについては、高齢化等により減少傾向にあり、新たな狩猟者の確保が必要であることから、具体的な取組として捕獲の担い手育成研修を実施するなどし、人材の育成・確保を進めるとともに、捕獲後の処理についても指導しています。また、有害鳥獣の捕獲については、地域が主体となった総合的な鳥獣被害防止対策が重要であり、効果的な有害捕獲方法の実証等に取り組むこととしています。	F (その他)
107	県南広域振興圏	Ⅳ米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9企業の経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	⑤農畜産物のブランド化・高付加価値化の促進	西わらびのブランド化は成功事例で、第2、第3のものを作りたいので、ノウハウや人材面など支援、サポートをお願いしたい。西和賀普及サブセンターを中心に産業振興支援をお願いしたい。西和賀普及サブセンターの存続についてもお願いしたい。	「西わらび」のブランド力向上や高付加価値化については、取組方向に「農畜産物のブランド化・高付加価値化の促進」を盛り込み、関係機関・団体等と連携したPR・販売活動や、地理的表示保護制度(GI)の活用等の支援に取り組むこととしており、今後も、関係機関・団体と連携しながら、西和賀普及サブセンターを中心として、地域特産物の生産振興を支援していくこととしています。	C (趣旨同一)
108	県南広域振興圏	Ⅳ米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9企業の経営体を中心となった収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	④畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進 ⑤農畜産物のブランド化・高付加価値化の促進	湯田牛乳公社について、需要に供給が追いつかない状況。売上が伸び、町内のブランドを牽引している。ベースは生産振興なので、酪農振興支援をお願いしたい。	酪農については、一層の経営体質の強化が重要であることから、取組方向に「畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進」を盛り込み、関係機関・団体と連携しながら、サポートチーム等を中心とした飼養管理技術や経営の改善に向けた重点指導、外部支援組織の強化・有効利用の促進等により、担い手の生産性向上や規模拡大の促進に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
109	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9 企業の経営体を中心とした収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	④畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進	ずっと言い続けていることは、一次産業の振興。農林畜産水産が基幹産業でこれを足腰の強い産業にすることが岩手の底力を支えるパワーとなる。遠野の畜産は生産額45億を確保。現在の子牛価格高騰が、いつまで続くか不安。遠野市は畜産振興が柱で、耕畜連携が遠野ブランド。どう維持するのが課題。農業は高齢化を恐れない。何歳になっても従事できる。これが中山間地域の強み。少子化、高齢化に対応できるのは一次産業の現場であることを見据えた施策、ビジョンを示してもらいたい。	本県の農林水産業については、食品産業や観光業など他産業への波及が大きい裾野の広い産業であり、地域経済を支える基幹産業の1つとして、また、地域振興の観点からも、将来にわたり持続的に発展していくことが重要であることから、取組方向の「①産地をけん引する企業の経営体の育成」、「②競争力の高い米産地の育成」、「③園芸産地の生産構造の強化」、「④畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進」、「⑤農畜産物のブランド化・高付加価値化」、「⑥協働・連携による農村地域の保全・活性化」を6本の柱とし、多様な経営体が収益性の高い農業を実践する地域の形成に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
110	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9 企業の経営体を中心とした収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	⑥協働・連携による農村地域の保全・活性化	県南地域の北上川流域は勢いのある地域、世界遺産あり、人口も、企業も集積し、農業も基盤があり、民間の力で進んでいくパワーを持っている。一方で、西和賀町や遠野市や一関市の旧東磐井地域のような過疎地域、典型的な中山間地域で農業林業をきちんとやっている。これらの地域への目配り、気配りするようなビジョンなどを示してほしい。そうすれば住民の意欲も掻き立てられる。11のプロジェクトのなかで考えていることかと思うが、もう少し具体的なものとして見えればよい。	中山間地域の農業を維持していくためには、地域の担い手だけでなく、多くの住民が参画した地域ぐるみの取組が不可欠であることから、取組方向に、「小規模兼業農家も参加する地域ビジョンの策定と実践活動の支援」や、「企業や都市住民等と農村との協働・連携活動の促進」、「グリーン・ツーリズムや農泊の促進」、「地域特産物のブランド力向上」等を盛り込み、住民が農業を生業としながら、多様なスタイルでいきいきと暮らせる中山間地域の実現を目指すこととしています。	C (趣旨同一)
111	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9 企業の経営体を中心とした収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます	⑥協働・連携による農村地域の保全・活性化	地域振興プランは方向性であり、個々の事業名は入っていないものと思うが、世界農業遺産の関係はどの辺で読み取れるか。できればもう少し匂わせてほしい。	世界農業遺産に係る取組については、認定を契機とした東稲山麓地域の活性化を目的としていることから、取組方向の「企業や都市住民等と農村との協働・連携活動の促進等による農村地域の活性化」において、企業・ボランティア等との連携による地域活動や、都市農村交流、情報発信等による関係人口の創出などの取組を積極的に支援していくこととしています。	C (趣旨同一)
112	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9 企業の経営体を中心とした収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます		農業について、知事との意見交換の時にも、もう少し手厚く書いたらどうかと言い、いろいろ書いてもらったが、なお不満なのが、今の一次産業が置かれている危機的状況、外圧にどう立ち向かうのか、というあたりをもう少し強調して、県民にメッセージとして出してほしい。農家の高齢化は限界に来ている。農業関係は色々な支援策があり、農協、市町村、県が補完しながらやっているが、後追いになっているので、そうではなく、こっちに引っ張りますと、誘導する必要があると思う。米政策が転換する今こそチャンスだと思う。もう少し、農家に対して、行政も一緒に頑張ろうというところを示してほしい。	本県の農業は、担い手の不足や高齢化が進んでいるものの、地域経済を支える基幹産業の1つとして、また、地域振興の観点からも、将来にわたり持続的に発展していくことが重要であると認識しています。このため、取組方向では、①産地をけん引する企業の経営体の育成、②競争力の高い米産地の育成、③園芸産地の生産構造の強化、④畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進、⑤農畜産物のブランド化・高付加価値化、⑥協働・連携による農村地域の保全・活性化を6本の柱として盛り込んでいきます。これらの施策を通じて、県では、担い手が意欲と展望を持って農業経営に取り組むことができる「強い農業」と、小規模兼業農家も参画した農業生産や地域活動の活発化による「活力ある農村」の実現を目指し、関係機関・団体と緊密に連携しながら取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
113	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	9 企業の経営体を中心とした収益性の高い産地の形成と協働・連携による農村地域の活性化を進めます 10森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します		県南局の産業集積の中心は北上地区で、産業集積のけん引役となっているが、西和賀町には地域に根ざした小さな産業があり、それをよりどころにして生きている地域であり、そのような地域にも光を当ててほしい。西和賀町は北上に近いが環境が全く違う状況にあり、北上への通勤は難しい。むしろ環境を好んで来る人、地域産業を大事にして生きていこうとする人がいるので、当地域の地域産業である農林業推進についてお願いしたい。	県南圏域では、各地域の特性を踏まえ、ものづくり産業の集積を背景とした産業振興に加え、豊かな地域資源を活用した生かした地域振興を進めていきます。地域振興プランでは、中山間地域の農業を維持するための協働・連携による農村地域の保全・活性化の取組、低コスト林業の推進による木材の安定供給の取組などを盛り込み、農林業を生業としながらいきいきと暮らせる中山間地域の実現を目指すこととしています。	C (趣旨同一)
114	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	10森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します		森林環境譲与税をどのように使うかが課題である。森林分野の専門家が人材不足。体制が整わないと取組が動かない。具体的な進め方を分かる人がいないとただ基金にため込むだけになってしまう。従来からある県の森林づくり県民税との棲み分けが分かりにくい。	2019年度から予定されている森林環境譲与税について、市町村による森林整備に対する支援等に関する費用に活用することとされており、県では、市町村が行う間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進が円滑に行われるよう取り組んでいきます。また、いわての森林づくり県民税は、現在、2020年度を終期とする第3期の取組を進めているところであり、今後、制度の詳細が明らかとなる森林環境譲与税との関係を整理するとともに、これまでの取組の成果や課題等も踏まえながら、2021年度以降のあり方について検討を進めていきます。	F (その他)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
115	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	10森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します		森林環境譲与税の配分は、面積により額が異なるが、市町村では強弱が出て、県がリードしないとバランスが悪くなってしまいます。これからの重要な施策なので、県が中心となって取り組んでほしい。	国は、新たな森林経営管理制度の開始を踏まえ、2019年度から森林環境譲与税の地方自治体への譲与を予定していることから、県では、市町村が地域の実情を踏まえた制度等の効率的な運用ができるよう、県の林業担当課等で組織する対策チームを設置し、新たに生じる業務等について市町村への助言等を行っています。 今後とも、他県における取組状況等の情報収集に努めるとともに、市町村への情報提供や、事務執行体制の整備に向けた市町村への助言等を行うなど、市町村が制度を確実に運用できるよう支援していきます。	F (その他)
116	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	10森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します	②森林施業の集約化の促進や情報通信技術（ICT）の導入等による林業経営の効率化	森林環境譲与税の対応は市町村では使途になかなか苦慮しそうだ。市町村は林業の知識もない、技術者もいないので、県で技術的な教育をまとめてやってくれないか。例えばドローンを活用した現況把握など、技術的な取組を県でまとめて行ってほしい。市町村の費用負担も安くなるし、次につながる。そのようなしくみづくりをお願いしたい。	林業の技術指導等については、林業経営の効率化のため重要であることから、取組方向に「森林施業の集約化の促進や情報通信技術（ICT）の導入等による林業経営の効率化」を盛り込み、ICT等の先進技術の導入を推進するとともに、林業経営を行う人材育成を市町を含め、取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
117	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	10森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します	②森林施業の集約化の促進や情報通信技術（ICT）の導入等による林業経営の効率化	森林環境譲与税について、制度等まだよくわからない。平泉町は山林も景観的な観光資源。これまでよりは事業化できると期待している。	2019年度から予定されている森林環境譲与税については、市町村が行う間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林整備及びその促進に関する費用」に充てるとされています。県では、市町村の取組が円滑に行われるよう支援していきます。	D (参考)
118	県南広域振興圏	IV米・園芸・畜産や林業などの多様な経営体が収益性の高い農林業を実践する地域	10森林資源の循環利用により、林業・木材産業を振興します	③低コスト林業の推進や未利用資源の有効利用による木材の安定供給	林業振興についてはやらねばと思っており、一関市は資源エネルギー循環型まちづくりで、バイオマス産業都市構想が県内初で認定され、取組を進めているが、一番難儀なのが、林業分野における資源エネルギーの循環だ。成功事例は4月開校した千厩小学校のチップボイラーで、山にある間伐材を集めてチップ化し、ボイラー燃料にしている。集めてくる人たちがカスケード協会を組織し、雇用を創出している。雇用、エネルギー、林業政策と複合的にやっていけばものになる。林業は大変なところとうまくいっているところ半々あると思う。	林業における資源エネルギーの循環については、木材等の森林資源の循環利用を促進することが重要であることから、取組方向に「低コスト林業の推進や未利用資源の有効利用による木材の安定供給」を盛り込み、低コスト林業の推進等による木材の安定供給、伐採後の再造林（更新）の促進、松くい虫被害材等未利用資源の木質バイオマスエネルギーへの有効利用の促進に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
119	県南広域振興圏	その他			地域振興プランについては異存ない。その上で、以下の問題提起をしたい。10年間でどこまでやるのか。ものづくりに対する取組、労働者問題、人材育成など様々変化していくが、グローバルな考え方をしないと対応できなくなる。 計画としてやりたいのはわかるが、具体的に何を解決すればいいのか、何を準備しないといけないか明確にしないと進まない。県南局として幸福というテーマにどう対応していくのか。対応するためには財源と人手が必要だができるのか。 県南局として、優先度、重要度で考えた時に、抱えている最大の課題はなにか。	県では、人口減少や少子高齢化の進行、地域の国際化、産業集積が進むことによる人材確保など、多くの課題があり、これらに対応していくためには各市町や関連団体との連携のほか、隣接する県との連携が必要となるなど、広い視野を持った取組の推進が求められます。今後10年間で、地域の国際化の進展や産業集積の進行など地域の状況変化に応じ課題も多様化し、複雑化するものと考えており、各種課題を明確に捉え、限られた財源・人材を活用しながら最大限の効果を上げるよう取組を推進していきます。	F (その他)
120	県南広域振興圏	その他			この施策はこの自治体を中心にやろう、ということが、構成自治体にわかるとよい。 平泉は文化遺産とか、ここだったら先駆的に県の看板を背負ってできるな、ということがわかればよい。	県南広域振興圏の地域振興プランは、圏域全体の地域振興を推進する計画であり、取組の中で、地域が限定される取組等については、可能な限り地域名を記載するなどし分かりやすい計画として作成していきます。	C (趣旨同一)
121	県南広域振興圏	その他			市町村は人口減少にどう対応し、どうやって地域コミュニティを維持するかを考えているが、歯止めがかからない。前の10カ年の検討の時も話したが、社会減、自然減に対する対応が大命題であったが、現実には減少し続けている。現実はずっと厳しい。 県と市町村が一緒にやらなければならないのは、人口減少と高齢化に対する新しい対策だ。地域を支える人自体が少なくなっている。地域がどう変わるのかの視点で考えた時に、何が必要になるかが重要。市町村任せにせず、県も一緒になって、例えば、高齢者見守り運動とか、防災関係、公共交通など、展開してほしい。高齢化社会でこれまでにない現象が始まっており、それが加速する。このような現実に対する対応策を具体的に出不ないと、ビジョンはビジョンのままになってしまう。暮らして言うとならば、空き家対策をどうするか課題。生活を脅かす課題をどうするか、住民目線、企業目線、行政目線それぞれで考える必要がある。	人口減少及び高齢化については県の大きな課題であり、市町と一体となり対策を推進することが重要です。地域振興プランでは取組方向に「持続的な地域コミュニティづくりと人材育成・活躍支援」において、住民等による自主的な地域課題解決の取組や地域づくりを進める市町の支援、地域交通の利用促進及び地域コミュニティを担う人材の育成などの取組について盛り込み、市町と連携した取組を推進することとしています。また、空き家対策などの課題については、政策推進プランにおいて空き家の流通促進を盛り込んでおり、全県の取組として、ともに取組を進めることとしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
122	県南広域振興圏	その他			計画全体について、県の次期総合計画の意味は、130万人県民を一つの方向へ導くもので、それだけ崇高なものと理解したうえで、総花的に感じるが、やむを得ないだろう。 県南エリアの地域振興プランについて、各市町の課題は地域性があり、県南としてはこれにしっかり対応することでアクションプランを固めていくようになればよいと思う。市町はそれぞれで総合計画があり、県の計画と市町の計画に食い違いがないように注意してもらいたい。	県南広域振興圏の振興に当たっては、地域が置かれている状況や課題、地域資源の特性を踏まえつつ、市町の計画とも整合を図りながら、地域の振興施策を推進していくこととしています。	C (趣旨同一)
123	県南広域振興圏	その他			北上川バレープロジェクトについて、この「北上川・・・」という、昭和40年代のテクノポリス構想を想起させる。岩手県の産業振興の大きなプロジェクトで、北上川流域をエリアとしたが、終盤に前沢町で線引きされた。一関地域(西磐井、東磐井)はエリア対象外とされたため、独自に「両磐テクノポリス構想」を策定、民間企業が基金まで作ったが優遇措置が認められなかった経緯がある。このようなやり方が続いている。頭脳立地法、北上川流域ものづくり構想も、奥州市で線引きされる。 一関の人達は、「北上川・・・」に対して複雑な思いがある。この地域は、このような経緯もあり、県に頼らないでやろうという気構えのある地域である。	北上川バレープロジェクトでは、IT産業、学術機関、産業支援機関等が集積する盛岡市を含む県央広域振興圏と、ものづくり産業が集積する県南広域振興圏双方の強みの掛け合わせによる北上川流域全体の産業の高度化・高付加価値化、生活環境の充実に資する働きやすく、暮らしやすいゾーンの創造を目指していくこととしています。 また、プロジェクトの成果が速やかに他地域に波及していくとともに、広く県民が生活の利便性を享受することにより、県民全体の暮らしが豊かになることを目指すものであり、県南地域全体にも効果が及ぶように県全体でプロジェクトを進めていきます。	D (参考)
124	沿岸広域振興圏	I復興まちづくりが着実に進み、東日本大震災津波の教訓が伝承されている、災害に強い地域	1復興まちづくりを進め、東日本大震災津波の教訓を伝えます	③東日本大震災津波の教訓の伝承と情報発信	「学ぶ防災」事業に取り組んでいるが、お客が少なくなってきている。エージェントなどを通じ、事業開始2年くらいは、順調であったが、3年目から減り始めた。それでも、1年に2万人の方には来ていただいており、これは、震災遺構を中心とした体験メニューがあるから。言葉だけでは震災の教訓は伝えきれない。地域には、黙祷する施設も無いが、今後は、きちんとした震災資料館が必要。	東日本大震災津波の教訓の伝承は重要であることから、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施するなど、災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすための取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
125	沿岸広域振興圏	I復興まちづくりが着実に進み、東日本大震災津波の教訓が伝承されている、災害に強い地域	1復興まちづくりを進め、東日本大震災津波の教訓を伝えます	③東日本大震災津波の教訓の伝承と情報発信	震災から8年目を迎えるが、教育委員会などに、子供たちの教育の一環として学ぶ防災に取り組んでもらいたい。よく、子供に被災時の映像を見せるのかと言われるが、震災の記憶のない子供もいる。子供を守るだけの視点ではなく、教育の場として学ぶ防災を活用してほしい。	東日本大震災津波の教訓の伝承は重要であることから、取組方向にいわての復興教育の推進を盛り込み、東日本大震災津波の経験や教訓を学校教育に生かし、岩手の防災・復興を支えるひとつづくりを進めることとしています。	C (趣旨同一)
126	沿岸広域振興圏	I復興まちづくりが着実に進み、東日本大震災津波の教訓が伝承されている、災害に強い地域	2自然災害に強いまちづくりを進めます	③「自助・共助・公助」を組み合わせた防災・減災対策の推進	自身は、大船渡市内陸部に居住しており、津波の危険は殆んど無い地域。しかし、全市一律の津波訓練の地域になっており、参加率も低い。一方で、盛川の氾濫の可能性は大きく、このような地域毎のリスクに備えるきめこまかい訓練などが必要。	地域防災力を強化していくことは重要であることから、東日本大震災津波や近年の各種災害における経験・教訓を踏まえ、県民一人ひとりの防災意識の向上や、地域コミュニティにおける住民同士が助け合える体制の強化、国・県・市町村・防災機関が連携した防災・減災体制の整備などを進めていきます。	C (趣旨同一)
127	沿岸広域振興圏	I復興まちづくりが着実に進み、東日本大震災津波の教訓が伝承されている、災害に強い地域	2自然災害に強いまちづくりを進めます	③「自助・共助・公助」を組み合わせた防災・減災対策の推進	震災から年月が経つにつれ、自己防災の取組が少なくなっていることは感じている。各事業所単位でも、忙しく、周知しきれていない。今どこに逃げればよいのか、逃げる場所を事業所単位で確認する、また、逃げる場所も一箇所ではなく、拡大していく工夫も必要。	事業所も含む地域防災力を強化していくことは重要であることから、東日本大震災津波や近年の各種災害における経験・教訓を踏まえ、関係機関が連携・協力し、住民が自らの身を自ら守る意識の醸成、地域の安全を守る体制と実効的な防災体制の整備を進めていきます。	C (趣旨同一)
128	沿岸広域振興圏	I復興まちづくりが着実に進み、東日本大震災津波の教訓が伝承されている、災害に強い地域	2自然災害に強いまちづくりを進めます	③「自助・共助・公助」を組み合わせた防災・減災対策の推進	川の氾濫マップが公表されたが、住田町では、中心部の主要な地域が殆んど水没するような形。下流の高田町では、ハザードマップが無いが、避難所となる公民館が指定されており、川のそばである。これでよいのか疑問。コミュニティ内でも避難先を良く考えておく必要がある	コミュニティごとのきめ細かい防災体制の構築は重要であることから、その構築にあたって、大切な役割を果たすハザードマップの作成のため、水位周知河川や洪水浸水想定区域の指定を進め、市町村の作成支援に取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
129	沿岸広域振興圏	I復興まちづくりが着実に進み、東日本大震災津波の教訓が伝承されている、災害に強い地域	2自然災害に強いまちづくりを進めます	③「自助・共助・公助」を組み合わせた防災・減災対策の推進	訓練も、何人が逃げましたという「報告訓練」が中心となっているが、このような取り組みで外国人観光客を安全に避難誘導できるのか。コミュニティ再生の視点も交え、防災力を強化したまちづくりも進めていくことが必要。	防災力を強化したまちづくりを進めることは重要であることから、多重防災型まちづくりの考え方に基づき復興まちづくりの基盤整備を行うハード対策と、自助、共助、公助を組み合わせたソフト対策による総合的な防災体制の構築を推進することとしています。また、取組方向に「地域防災サポーター制度を活用した地域コミュニティにおける防災訓練などへの支援」を盛り込み、より実践的で有効な避難体制の構築を進めていきます。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
130	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	3被災者一人ひとりに寄り添い、心身ともに健やかに暮らせる環境をつくります	②災害公営住宅等における新たなコミュニティの形成や活性化に向けた取り組みの促進	「地域公共交通の取組」が記載されているが、三陸鉄道の取組もよいが、免許を持たない方々の身近な交通確保の取組を進めてほしい。この地域の市町村内は、広いので、使いやすい公共交通の整備を進めてほしい。	災害公営住宅などにおける住民の日常生活を支える交通手段を確保することは、高齢化が進む沿岸圏域において、重要な課題であることから、取組方向に「市町村によるバスなどの地域公共交通の確保の取組への支援」を盛り込んでいます。	C (趣旨同一)
131	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	3被災者一人ひとりに寄り添い、心身ともに健やかに暮らせる環境をつくります	②災害公営住宅等における新たなコミュニティの形成や活性化に向けた取り組みの促進	支援メニューはあるが、何が使えるのかわからない。地域コミュニティ支援として、人件費を生かせるような予算のつけ方を工夫してほしい。単にNPO支援の枠にとどまらず、広く人的投資の観点からの施策展開や予算編成を望む。	制度の周知については、様々な媒体を使った広報の実施に加え、関係機関等と連携した制度説明会や制度利用者へのあっせんなどを行い、わかりやすく、つかいやすい環境を整備していきます。地域コミュニティの支援については、取組方向に「地域づくり団体の育成と人材の交流推進」などを盛り込んでおり、市町村と連携しながら、取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
132	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	5良好な自然環境の保全・活用と持続可能な生活環境の整備を進めます	①自然環境の保全と活用の推進	ジオパークについては、しっかりと動きを見せてほしい。	三陸ジオパークについては、魅力的な観光資源として活用を図ることが重要であることから、取組方向として、「三陸地域の恵みや災害からの復興など沿岸地域における生き方を次世代や他の地域の人たちと共有するため、ジオツーリズムを推進」することとしています。	C (趣旨同一)
133	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	5良好な自然環境の保全・活用と持続可能な生活環境の整備を進めます	①自然環境の保全と活用の促進	「自然環境の保全と活用の推進」について、記載に「休止・低迷状態にある環境団体」との言葉があり、驚いた。もしそのような団体があるのであれば、教えてもらい、団体として、交流、つながりを図り、イベントなどで連携したい。	環境団体については、県のホームページに掲載されている「地域流域ビジョン」などや、最寄の広域振興局などにお問い合わせいただくなどにより確認できます。「休止・低迷状態にある環境団体」との記載については、御意見を踏まえ、修正しました。環境団体の一層の活動活性化に向けて、環境保全活動や環境学習の取組を支援していきます。	B (一部反映)
134	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	5良好な自然環境の保全・活用と持続可能な生活環境の整備を進めます	②廃棄物減量化対策などによる循環型地域社会の構築	釜石は、ゴミ廃棄量も沿岸地区で一番多く、廃棄物対策は重要。例えば「ペットボトルを使わない日」を制定してみるなどの試みはできないか。日常生活での、ゴミ減量施策を県として取り組んでほしい。市民が、日常生活の中で取り組める施策が必要。	プラスチックなどの家庭ごみを中心としたごみ減量化については、社会問題となっている海洋プラスチックごみ削減に向けても重要な取組であることから、取組方向にワンウェイ容器・包装の削減、3Rの普及啓発を盛り込み、循環型地域社会の構築に向けた取組を推進することとしています。	C (趣旨同一)
135	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	5良好な自然環境の保全・活用と持続可能な生活環境の整備を進めます	③地球温暖化対策の推進	「地球温暖化を防ごう隊」の記述があるが、学校に取り組んでもらうには、チャートによりまとめて報告が必要など、作業が大変である。防災教育も記述があるが、学校の現場が忙しく、取り組めない状況。子供たちを育てていく視点をもっと盛り込むべきである。	この事業の報告書については、今年度から、記載項目を少なくするなど一定の簡略化を図っていますが、さらに多くの学校で本事業に取り組んでいただけるよう、引き続き、運用改善に取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
136	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	5良好な自然環境の保全・活用と持続可能な生活環境の整備を進めます	③地球温暖化対策の推進	地球温暖化防止対策の推進に関しては、クールビズ、ウオームビズなどの取組をはじめ、地域の方々は何をすればいいのかわからないと思うので、対応が必要。	地球温暖化防止については、身近な節電等の取組を通じて地球温暖化防止に対する意識を高めることが重要であることから、「地球温暖化を防ごう隊」への小学校の参加促進など、温室効果ガス排出削減の普及啓発と機運醸成に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
137	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	6安心して子どもを生み育てることができ、高齢者や障がい者がいきいきと、健やかに暮らせる社会をつくります	①結婚支援や、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の推進	医療連携会議に構成員として出席しているが、高齢者の多い地域特性もあり、病院の病床数など、高齢者対策の話題が殆んどであり、自身の分野である、子育て分野の議論が薄い。子育て支援についても、地域の特性を生かしながら、展開を図ってほしい。	「子育て世代包括支援センター」の市町村への設置を促進し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供することを盛り込み、子育てのしやすい環境づくりに向けた地域における支援体制の充実強化を進めていきます。	C (趣旨同一)
138	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	6安心して子どもを生み育てることができ、高齢者や障がい者がいきいきと、健やかに暮らせる社会をつくります	①結婚支援や、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の推進	i-サポについて。周知を進めるべき。まずは登録を進めることが重要。また、政策推進プランでは、男性の生涯未婚率は全国第二位の高さとの記載があるが、これは大変なことであり、対策に力を入れるべき。	沿岸圏域では、平均初婚年齢が上昇しているなど未婚化、晩婚化が進んでいることから、取組方向に「各種婚活イベントの情報発信やi-サポの周知・会員登録の推進」を盛り込み、結婚を望む男女への出会いの機会の提供を進めていきます。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
139	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	6 安心して子どもを子育てることができ、高齢者や障がい者がいきいきと、健康やかに暮らせる社会をつくりたい	②高齢者の生きがいづくりや社会参加活動の推進	健康づくり・医療について。成人病での死亡率も高い沿岸地域において、医療機会（受診促進）への補助をしてほしい。ホコタッチなどの健康の取組が数値として見える形での健康づくりへの支援など、良くない数値を下げられる環境づくりをしてほしい。	医療機関への受診促進については、重症化を予防する上で大変重要であることから、医療機関や医師会・保険者と連携した治療継続のしくみづくりに県全体で取り組むこととしています。また、歩数計などを活用した体験型の出前講座・チャレンジマッチにより、企業の健康経営支援に取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
140	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	6 安心して子どもを子育てすることができ、高齢者や障がい者がいきいきと、健康やかに暮らせる社会をつくりたい	④医療と介護をつなぐ情報ネットワークを活用した、保健・医療・介護・福祉が一体となった地域包括ケアシステムの推進	自社の作業員が住田町で作業中に、ひどいめまいに襲われ、住田病院に駆け込んだ。窓口担当者から「診察時間が終了した」と告げられ、具合が悪いようであれば、大船渡病院に行くよう話をされた。とても自分で行ける状態ではなく、病院担当者に救急車の手配を依頼したところ「病院では救急車は呼べないので、自分で呼ぶよう」に言われ、自分で救急車を呼び、大船渡病院に搬送された。結局、当日、担当医（耳鼻科担当）が不在で、受診できずに帰宅、翌日、大船渡病院を受診しにいくと、耳鼻科担当医から、昨日の住田病院への訪院時に、住田病院に往診中だったことを告げられ唖然としたとのこと。医療局の問題と思うが、政策も大事であるが、現場の体制も重要。現場がこの計画を良く知っているのか。計画を実施する現場の体制づくり、この点十分に配慮するべき。	「いわて県民計画（2019～2028）」では、「健康・余暇」の政策分野において、必要に応じた医療を受けることができる体制の充実を掲げており、また、医療局が今般策定した「岩手県立病院等の経営計画〔2019-2024〕」においても、県民に良質な医療を持続的に提供することを目標として掲げています。御指摘いただいた件については、各病院へ伝えるとともに、それぞれの計画について職員への周知を図り、患者の立場に立った、より信頼され、愛される病院づくりを目指していきます。	D（参考）
141	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	6 安心して子どもを子育てすることができ、高齢者や障がい者がいきいきと、健康やかに暮らせる社会をつくりたい	④地域医療と介護をつなぐ情報ネットワークを活用した、保健・医療・介護・福祉が一体となった地域包括ケアシステムの推進	「医療と介護をつなぐ情報ネットワーク」を、障がい者支援、子育て支援などに拡大して活用することは具体的に想定されず、「共に生きる社会づくり」の推進に寄与するとは考えにくいことから削除いただきたい。	「地域包括ケアシステム」の「必要な支援を包括的に提供する」という考え方を、高齢期の支援だけでなく、障がいのある人や子ども等への支援にも普遍化するため、「医療と介護をつなぐ情報ネットワーク」を推進基盤の一つとして「共に生きる社会づくり」を目指すものです。	D（参考）
142	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	6 安心して子どもを子育てすることができ、高齢者や障がい者がいきいきと、健康やかに暮らせる社会をつくりたい	県以外の主体に期待される行動	「子育て応援センター」は一般的な名称とは言えないことから、国の制度名である「地域子育て支援拠点」に修正いただきたい。	御意見を踏まえ、修正しました。	A（全部反映）
143	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	7 安心して健康やかに暮らせる地域医療の確保と健康づくりを進めます	①医療・介護人材の確保・育成や保健・医療・介護・福祉の連携強化	アクションプランでは、医師・看護師の確保に触れられているが、本県においてはリハビリテーション専門職種（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）の配置に県北部・沿岸部と県中部・県南部との間に格差が生じている。良質な医療の提供とともに県内の均一な地域包括ケアシステム推進にはリハビリテーション専門職種の配置も重要であり、県北部・沿岸部におけるリハビリテーション専門職種並びにリハビリテーション資源の確保を明記されてはいかかがか。	平成29年3月に策定された岩手県地域医療構想においても回復期の病床が必要とされており、地域包括ケアシステムの推進と併せ、今後、リハビリテーション専門職種の重要性は高まるものと考えられます。沿岸圏域においては、リハビリテーション専門職種以外の医療人材や介護人材についても不足している状況にあるため、医師や看護師、リハビリテーション専門職種など、広く医療人材と介護人材の確保が必要との趣旨から「医療人材・介護人材の確保・育成」を支援していくこととしています。	C（趣旨同一）
144	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	7 安心して健康やかに暮らせる地域医療の確保と健康づくりを進めます	②食生活の改善や運動習慣の定着などによる生活習慣病の予防と高齢者の健康づくりの推進	これまで汁ものを中心に減塩活動をしてきたが、本年度から、いきいき財団の支援を得て、「減塩モニター」を導入。各人が実際に体内に入っている塩分を正確に把握することができる。このような取組を是非沿岸圏域、三陸地域全体で進めてほしい。	「減塩モニター」を活用した食塩摂取調査については、生活習慣改善のための動機付けに大変効果的な取組であることから、取組方向に「減塩モニターの活用」を盛り込み、働く世代や高齢者への体験型の健康づくり活動を推進することとしています。	C（趣旨同一）
145	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	7 安心して健康やかに暮らせる地域医療の確保と健康づくりを進めます	②食生活の改善や運動習慣の定着などによる生活習慣病の予防と高齢者の健康づくりの推進	人生100年時代を迎え、平均寿命は伸張したが、健康寿命との差が縮小しないことが問題。若い世代、例えば高校生から、食生活の改善を図っていくことが重要。	高校生等若い世代の食生活改善については、健康的な生活習慣の定着に向け、学校への出前健康教室や健康チェック機器の貸出し、指導関係者の研修会などの取組を進めているところであり、引き続き取組を進めていきます。	C（趣旨同一）
146	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	7 安心して健康やかに暮らせる地域医療の確保と健康づくりを進めます	②食生活の改善や運動習慣の定着などによる生活習慣病の予防と高齢者の健康づくりの推進	高齢者対策、いわゆるフレイル予防の取組も重要。食生活については、トータルで栄養素をとる、特にたんぱく質を取ることが重要であり、1日あたり10食品群を適切に取れるよう、健康寿命の延伸につながるよう、取組を進めてほしい。	高齢者のフレイル予防については、「講演会や体験型キャンペーンによる普及啓発活動」を盛り込み、多様な食品群やたんぱく質摂取など、健康体力を維持するための食生活の普及に取り組むこととしています。	C（趣旨同一）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
147	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	8 スポーツ・文化を楽しむ、一人ひとりが豊かな生活を送ることができる活力あふれる地域をつくります	①ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機に、住民が生涯にわたりスポーツに親しむ取組の推進	ポストワールドカップの件。鶴住居スタジアムの活用を大いに検討すべき。サブグラウンドを整備し、全国大会を誘致する。この地域は、天候にも恵まれているので、この利点を生かして、県、釜石市、大槌町も含めて、スタジアムの利活用を進めるべき。観光面での活用、スポーツ合宿、スタジアムの文化事業への活用など、今あるものをどのように生かしていくかということが重要な視点。	ラグビーワールドカップ後のスポーツ施設の利活用や地域振興については、交流人口の拡大や地域経済の活性化につながるということが重要と考えており、スポーツツーリズムなどによる地域振興に取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
148	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	8 スポーツ・文化を楽しむ、一人ひとりが豊かな生活を送ることができる活力あふれる地域をつくります	①ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機に、住民が生涯にわたりスポーツに親しむ取組の推進	鶴住居スタジアムの活用については、東北だけであるとなかなか使い切れないと考えており、東京も含めた他地域のノウハウをこの地域に生かしながら、幅広く、スタジアムの多様な使い方につなげていくことが必要。	ラグビーワールドカップ後のスポーツ施設の利活用については、交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげていくことが重要と考えており、スポーツツーリズムなどの取組を進めていきます。また、鶴住居スタジアムの活用については、釜石市と連携しながら、取組を支援していきます。	C (趣旨同一)
149	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	8 スポーツ・文化を楽しむ、一人ひとりが豊かな生活を送ることができる活力あふれる地域をつくります	①ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機に、住民が生涯にわたりスポーツに親しむ取組の推進	運動については、地域、学校、事業所などが連携してアプローチできるよう、皆が気軽に取り組める環境づくりが重要。	運動については、生活習慣病予防やフレイル予防に大変重要であることから、地域、学校、事業所、市町などの情報交換を密にし、運動の重要性の普及啓発のほか、運動場所の情報提供やウォーキングコースの設定・紹介などによる、日常生活の中での健康づくりを実践しやすい環境整備に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
150	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	8 スポーツ・文化を楽しむ、一人ひとりが豊かな生活を送ることができる活力あふれる地域をつくります	①ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機に、住民が生涯にわたりスポーツに親しむ取組の推進	スポーツ推進のプラットフォームの活動拠点は、沿岸部にも是非整備してもらいたい。	スポーツを活用した地域振興などを推進するためのプラットフォーム組織として、沿岸圏に「スポーツ・コンソーシアム」を設置し、ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催を契機とした国内外との交流拡大やスポーツ資源の拡充・強化、スポーツ参画機運の高まりを、更なるスポーツ振興につなげることであります。	C (趣旨同一)
151	沿岸広域振興圏	Ⅱ地域包括ケアシステムなどによる安心して暮らせる活力のある地域	8 スポーツ・文化を楽しむ、一人ひとりが豊かな生活を送ることができる活力あふれる地域をつくります	②教育や健康、交流などスポーツの持つ多面的機能を生かした地域活性化の取組の推進	人づくりが、大きな切り口。人をつくり、成長させることが重要。また、来年度はラグビーワールドカップも開催され、ボランティアも多数参画。このようなボランティアを通じた、他への「貢献感」を得ることも重要な要素。ボランティアを通じた人づくりも、この地域の大きな可能性につながる。	三陸地域の産業を担う人材の育成や若者・女性をはじめとした地域づくり人材の育成支援など、ひとづくりに力を入れた各種施策を推進していくこととしており、ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催に係るボランティアの経験なども生かしながら人づくりの取組につなげていきます。	C (趣旨同一)
152	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	9 生産性と付加価値の高いものづくり産業等を育てます	①中小企業の生産性と付加価値の向上による競争力の高いものづくり産業等の育成	世界のトップ企業が岩手には立地しているが、これら企業の生産性向上の取組などを学ぶことは、業態が異なっても重要なこと。刺激がないと生産性は向上しない。沿岸に是非広げてほしい。	企業の生産性向上については、取組方向に「中小企業の生産性と付加価値の向上による競争力の高いものづくり産業等の育成」を盛り込み、カイゼン活動の導入を促進し、沿岸圏域全体へのカイゼン活動の定着化による生産性の向上に取り組むこととしています。カイゼンリーディング企業の取組に触れることは、生産性向上に向けて重要な取組であり、内陸部を含む、優良な取組を展開する企業との交流などを図っていきます。	C (趣旨同一)
153	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	9 生産性と付加価値の高いものづくり産業等を育てます	①中小企業の生産性と付加価値の向上による競争力の高いものづくり産業等の育成	キャリア教育は、学校に来ている子供しか受けることができないが、いじめや家庭環境で学校に行けない子供もいる。若い人材を企業はほしいので、学校にいけない、家にもっているような中高生へのサポートなども実施し、明るい未来を示してもらいたい。	若者の地元定着については、児童生徒の発達段階の応じたキャリア教育により仕事や産業、地元企業への理解促進の取組を進めているところであり、御意見の学校へ行けない子供たち向けの地元企業への理解促進については、情報提供方法など今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D (参考)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
154	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	9生産性と付加価値の高いものづくり産業等を育てます	①中小企業の生産性と付加価値の向上による競争力の高いものづくり産業等の育成	地域推進プランに「カイゼン」の取組が記載されているが、自社でも2006年から、当時の沿岸広域振興局長の勧めで導入。このカイゼンの取組を是非、沿岸に広めてほしい。	カイゼンについては、地域企業の生産性向上を図るため、導入から定着までを一貫して支援することが重要であることから、各段階に応じた支援をきめ細かく行うほか、カイゼンリーディング企業を育成し、圏域全体への普及・拡大を図ることとしています。	C (趣旨同一)
155	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	9生産性と付加価値の高いものづくり産業等を育てます	②最新技術の活用や経営革新などによる水産加工業をはじめとするものづくり産業等の企業経営力の強化 ③三陸地域の産業を担う人材の育成	事業承継。後継者を見つけることは大変である。例えば、地域内M&Aなどの取組を進められないか。事業をつないで、事業承継を図ることもできるのではないかと懸念。	円滑な事業承継は、社会経済環境の変化に対応した安定的・持続的な企業経営において重要であることから、取組方向に「三陸地域の産業を担う人材の育成」を盛り込み、後継者などを対象とした研修や若手経営者などの連携・交流の促進に取り組むこととしています。 なお、M&Aについては、岩手県事業引継ぎ支援センターが県内全域の相談案件に一括して対応しています。	C (趣旨同一)
156	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	9生産性と付加価値の高いものづくり産業等を育てます	③三陸地域の産業を担う人材の育成	学校の先生方のインターンシップ、企業訪問学習に関し、内陸のレベルの高い企業に連れて行くことがない。職業教育において、まずそのような世界に伍して戦う企業を見せることが重要。地元の子供たちの視野が狭くなることを懸念。	小中高生に将来設計については、職業別のライフプランについて情報提供することが重要であることから、取組方向に「三陸地域の産業を担う人材の育成」を盛り込み、児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育により、仕事や産業、地元企業への理解促進に取り組むこととしています。御意見のあった内陸部の優良な取組を展開する企業の視察などについては、今後の取組の参考とさせていただきます。	D (参考)
157	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	9生産性と付加価値の高いものづくり産業等を育てます	③三陸地域の産業を担う人材の育成	建設業界は、夏は炎天下で作業、冬は寒い中での作業というイメージで、実際、若手社員から、この業界は何が楽しいのかと言われたこともある。人材の確保、人材の定着を図るために、何か、この業界の面白さ、やりがいを伝える工夫が必要。	建設業界の人材確保、定着を図るため、若年層に対し地域における建設業の役割や仕事の内容を正しく伝えるとともに、県発注工事における週休2日制やICT技術の導入を推進することで、働きやすく、新規就業が促進される環境整備に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
158	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	10働く場の創出と地域に就業・定着できる環境をつくります	①キャリア教育による若者の定着や、U・Iターン、企業支援などによる移住・定住の促進	U・Iターン施策について。震災後、地域に転入している方々が今問題としているのは「住む場」の問題。今、仮設住宅に入居している方が、仮設住宅の撤去に伴い、新たな住居を探しているが、物件が乏しい上に、世帯でないで貸さないなどの制約も多い。今、若者に必要なサポートも是非、迅速に行ってほしい。	U・Iターンの促進にあたっては、沿岸圏域の仕事や住居を含めた暮らしの情報を提供することが重要であることから、取組方向に「U・Iターン、起業支援などによる移住・定住の促進」を盛り込み、県外進学者に対し、ふるさとの情報提供による沿岸圏域内への就職の働きかけ強化、及び首都圏などの学生を対象としたU・Iターン就職の促進に取り組むこととしています。住居確保の課題については、市町村と連携し、必要な情報提供などが図られるよう、支援を進めていきます。	C (趣旨同一)
159	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	10働く場の創出と地域に就業・定着できる環境をつくります	①キャリア教育による若者の定着や、U・Iターン、企業支援などによる移住・定住の促進	「創業・起業」への支援を厚くしてほしい。自身の会社では、地域おこし協力隊などで転入してきた方々9名ほどに事業創出の手伝いをしたが、創業・起業にチャレンジするためには、資金が必要。銀行などは、事業計画が相当しっかりしていないと融資には応じないが、県が応援してほしい。	「創業・起業」については、起業希望者に対する伴走支援が重要であることから、取組方向に「U・Iターン、起業支援などによる移住・定住の促進」を盛り込み、商工指導団体等と連携しながら、事業計画作成支援などに取り組むこととしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
160	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	10働く場の創出と地域に就業・定着できる環境をつくります	①キャリア教育による若者の定着や、U・Iターン、企業支援などによる移住・定住の促進	県で「ビジネスプランコンテスト」などを実施してみてもどうか。アイデアを外向きにPRできるようなピッチ（場）があれば、起業の意欲、モチベーションの向上にもつながると思う。	起業については、起業希望者に対して、事業計画策定などの伴走支援に取り組んでいるところであり、御意見頂きました起業意欲の向上については「ビジネスコンテスト」の実施等も含め、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D（参考）
161	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	10働く場の創出と地域に就業・定着できる環境をつくります	①キャリア教育による若者の定着や、U・Iターン、企業支援などによる移住・定住の促進	関係人口について。復興支援や仕事などの関係で、釜石市と何らかのつながりのある人も多い。「関係人口案内所」などを設けている自治体もあるようだが、このような取組をしてみてもどうか。「移住サポートセンター」など、今まで以上にわかるように、窓口を強化する必要がある。	移住サポートについては、岩手県U・Iターンセンターを岩手県東京事務所に設置し、主に首都圏のU・Iターン希望者の相談に応じているところです。沿岸圏域においては、取組方向に「U・Iターン、起業支援などによる移住・定住の促進」を盛り込み、首都圏などの学生を対象とした沿岸圏域企業におけるインターンシップの取組支援を通じて関係人口の拡大に取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
162	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	10働く場の創出と地域に就業・定着できる環境をつくります	①キャリア教育による若者の定着や、U・Iターン、企業支援などによる移住・定住の促進	人材確保について。内陸地域から自社に就職したいという若者がいるが、住むところがなく就職に結びつかなかったことが何年か続いている。会社でアパートを建てる、家賃補助などもできるが、可能であれば、住まいの確保への支援をお願いしたい。	域外からの移住促進にあたっては、沿岸地域の仕事、暮らしの情報を提供することが重要であることから、取組方向に「U・Iターン、起業支援などによる移住・定住の促進」を盛り込み、県外進学者等に対し、ふるさとの情報提供による沿岸圏域内への就職の働きかけ強化に取り組むこととしています。住居確保の課題については、市町村と連携し、必要な情報提供などが図られるよう、支援を進めていきます。御意見頂きました内陸地域からの就職希望者への支援については、沿岸地域の情報提供など今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D（参考）
163	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	10働く場の創出と地域に就業・定着できる環境をつくります	②潜在的な労働力の掘り起こしや多様な形態の就業の促進	子育てしている方が仕事を希望する場合、子供の預け先も重要な問題。子供をつれていける職場、キッズスペースの有る職場など、仕事ができる環境づくりも必要。	子育てしている方など多様な就業ニーズに応じた、暮らしと仕事が調和した働きやすい職場環境づくりを進めるため、超短時間勤務など多様な形態の就業の促進に取り組むこととしています。また、仕事と子育ての両立支援や職場環境の改善に取り組む企業を拡大するためいわて女性活躍認定企業等の認定取得支援を進めていきます。	C（趣旨同一）
164	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	10働く場の創出と地域に就業・定着できる環境をつくります	②潜在的な労働力の掘り起こしや多様な形態の就業の促進	子育て環境の整備については、企業側が保育に踏み込むことも必要ではないか。自社では、人に合わせて業務をつくる取組を行っている。具体的には、いつどのような場面でも休んでよいというパート制度を導入しているが、この雇用情勢の厳しい中、15～16名の応募があった。業務と人とのマッチングを、予め織り込んでおくと、このような自由な就業形態も可能となる。	子育てしている方など多様な就業ニーズに応じた、暮らしと仕事が調和した働きやすい職場環境づくりを進めるため、超短時間勤務など多様な形態の就業の促進に取り組むこととしています。	D（参考）
165	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	11漁業生産量の回復や水産物の高付加価値化により水産物を盛んにします	①漁業の生産量回復・生産性向上	水産物の振興について。国においても、漁業法が大きく改正されているが、地域の漁業も深刻に考えるべき。春先から長期化した貝毒の問題も、広域的な広がりを見せ、ホタテなどの養殖経営に大きな影響を与えている。共済制度などを使い、金銭的な補填などもしているが、それでも赤字。今後、共済の限度額の上限も絞られていくことも考えられる。陸前高田市は、ホタテの有数の生産地であり、県をはじめ、国、有識者が連携して、1大プロジェクトとして、（ホタテ等養殖の）安定出荷体制の確立を図ってほしい。	県では、貝毒の原因となるプランクトンの出現状況とホタテガイ等の毒化との関係解明に取り組んでいるほか、今後は貝毒の発生予測や貝の毒値を下げるための試験研究を推進していきます。また、国の研究機関が中心となり、本県を含む関係機関と共同で貝毒発生原因を解明する調査研究事業の創設を国等に対して要望していきます。地域振興プランでは、こうした研究成果を活用することなどにより、漁場の環境変化等に対応した生産技術の導入を進め、ホタテガイ等養殖業の生産量回復や生産性向上を図っていくこととしています。	C（趣旨同一）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
166	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	11漁業生産量の回復や水産物の高付加価値化により水産物を盛んにします	③水産物の付加価値向上・販路拡大	水産加工業も大変な状況になっている。消費者目線で見ても、魚より肉の方が安く、水産物の販売に苦戦。大船渡市では、さんまの町として、観光産業などの異業種交流なども進め、水産業の振興を図っているが、このような取組も必要。	沿岸圏域の基幹産業として、水産加工業の振興は重要であることから、取組方向に「水産加工業をはじめとするものづくり産業等の企業経営力の強化」などを盛り込み、カイゼンによる生産性向上や経営革新、販路拡大の取組について支援することとしているほか、若手経営者等による連携・交流を促進し、企業間連携により競争力強化を進めることとしています。観光との連携など、市町村が進める水産加工業等の振興施策についても、市町村と連携しながら、その取組を支援していきます。	C (趣旨同一)
167	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	11漁業生産量の回復や水産物の高付加価値化により水産物を盛んにします	③水産物の付加価値向上・販路拡大	計画中「高付加価値化」の記載があるが、管理指標では、「製造出荷額」となっている。これは単に売上げを伸ばすだけでなく、薄利多売でも達成できるもの。付加価値とは、営業利益に人件費、減価償却費を足したものの。題目と指標がずれているのではないかと。	ものづくり産業等の振興において、生産効率を高めることで経営資源を有効に活用し利益を生む取組が重要であることから、指標には、単に生産額などではなく、生産性に着目した「従業者一人当たり製造品出荷額」を設定することとしています。	C (趣旨同一)
168	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	12地域特性を生かした生産性・収益性の高い農業を盛んにします	②地域特性を生かした農畜産物の産地力向上	岩手大学では、「姫ブロッコリー」(小型であるが甘みが強い新品種)を開発しているが、例えば、これを施設園芸で展開しようとしても、大きな資金が必要となる。県単制度だけではなく、国、県、市町村一体となった施設整備支援制度を、広域で整えてほしい。	沿岸圏域では、地域特性を生かした園芸の生産拡大を進めることとしています。新たな品目(品種)については、研究機関や普及センター等の関係機関と連携し、品種の特徴や現地適性、市場性や収益性などを見極めるとともに、生産者の意向等を踏まえ、導入を検討することとしています。 また、施設園芸の拡大に向けた支援については、生産者の経営計画等も考慮しつつ、国や県、市町村の支援制度を活用しながら、関係機関・団体が連携して取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
169	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	インフラの整備は進んだが、首都圏方面では、道路整備の進展を知らない。この点、観光振興の面で、PRが必要。	首都圏方面を含め国内外からの誘客を促進するため、取組方向に「新たな交通ネットワークを生かした広域観光の取組推進」を盛り込み、広域観光ルートづくりや様々なメディアを組み合わせた情報発信を進めていくこととしています。沿岸圏域の道路ネットワークについては、当圏域の観光の強みの一つとして、情報発信、PRに取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
170	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	「やませツアー」を広域で展開するなど、三陸を一つとした観光振興施策が必要。	三陸を一体的に捉えた広域的な観光振興は重要であることから、取組方向に、「地域が一体となって旅行者を受け入れる観光地域づくりの推進」を盛り込み、三陸DMOセンターと連携しながら取組を進めていくこととしています。	C (趣旨同一)
171	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	メジャーな観光資源ではなく、地域でうずもれている資源、市町村毎の埋もれた資源を掘り起こすことが、今後の観光地域づくりにとって重要	地域でうずもれている資源の活用については重要であることから、取組方向に「地域資源の活用や掘り起こし、磨き上げ」を盛り込み、三陸DMOセンターと連携しながら、地域が一体となった観光地域づくりの取組を進めていくこととしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
172	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	観光について。地域では、飲食店ごとに人の流れが閉じてしまい、周辺に波及していない感がある。浜で遊ぶ、買い物をするなどテーマを決めて、行きやすくする観光エリア（拠点）作りを進めることが必要。	テーマ性のある観光エリアの形成や旅行商品の造成は重要であることから、取組方向に「地域資源の活用や掘り起こし、磨き上げ」を盛り込み、三陸DMOセンターと連携しながら、地域が一体となった観光地域づくりの取組を進めていくこととしています。	C（趣旨同一）
173	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	この地域は「岩手の湘南」と言われるくらい温暖な地域。合宿誘致には適している。高田高校は、バレーボールの強豪高であり、バレーボールの合宿誘致などがあってもよいと思う。また、陸前高田市においては、津波伝承館も整備される予定であり、観光への活用も期待できる（震災ツーリズムなど）	取組方向に、地域のスポーツ資源や文化、観光を融合させた「スポーツツーリズムの推進」を盛り込んでおり、御意見を踏まえ、スポーツ合宿を核にした、交流人口の拡大にむけた取組を進めていきます。	C（趣旨同一）
174	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	三陸DMOについて。観光産業は総合産業であり、シナジー効果が見込まれるという割りには、DMOは県観光課だけで運営、実施されている感がある。縦割である。例えば、マダラ祭りが宮古で開催されているが、水産だけの取組にとどまっている。食を楽しむイベントであるが、食産業や農林サイドとの連携がない。DMOでも、さまざまな分野に橋渡しを行うなど、総合産業的な体制づくりを図ることが適切。	観光振興においては、三陸DMOセンターのサテライト機能（宮古、釜石、大船渡、久慈）を活用しながら、様々な産業分野と連携して取り組むことが重要であることから、取組方向に「地域が一体となって旅行者を受け入れる観光地域づくりを推進するため、三陸DMOセンターと連携しながら、地域資源の活用や掘り起こし、磨き上げ」に取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
175	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	花巻空港は、国内外を結ぶ交通結節点であり、花巻空港と沿岸を結ぶ視点を県には持ってほしい。空港からのバスも盛岡までは来ているが、これを宮古、沿岸につなげられないか。沿岸まで来るのに時間がかかりすぎ、宮古で消費を行う時間がない。民泊、ホームステイの活用なども含め、観光客により多くの消費活動をしてもらう、時間を多く使って貰う仕掛けを確保してほしい。	国内外からの誘客促進については、交通機関の利用を含めた観光ルートの開発及び情報発信が重要であることから、いわて花巻空港を經由して、復興道路、三陸鉄道「リアス線」、宮蘭フェリーなど「新たな交通ネットワークを生かした広域観光の取組を推進」することにより、魅力的な観光地域づくりを進めることとしています。	C（趣旨同一）
176	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	①地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進	地域振興プランに、三陸鉄道のワードが薄いような気がする。	地域振興プランでは、三陸防災復興プロジェクト2019における三陸鉄道と連携した取組や、県と沿線市町村等で構成する岩手県三陸鉄道強化促進協議会の活動を通じた三陸鉄道の利用促進、「震災学習列車」の活用による東日本大震災津波の教訓の伝承と情報発信を行なうことなどを盛り込んでおり、三陸鉄道と連携した様々な取組を実施していきます。	C（趣旨同一）
177	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	③内陸地域や東北・北海道と三陸地域を結び、外国人観光客も視野に入れた広域観光の推進	三陸鉄道を生かしたインバウンド対策などに助成する等、三陸地域へのインバウンド誘客を伸ばす、具体的施策が必要。	三陸地域へのインバウンド誘客は重要であることから、取組方向に「情報発信力の強化」や「キャッシュレス決済の導入などの受入態勢の強化」、また「訪日外国人観光客の円滑な移動と快適な滞在を図るための多言語化の推進」などを盛り込んでいます。沿岸圏域の広域観光のコンテンツとして三陸鉄道は、重要な要素であり、国内外の誘客を図るため「三陸鉄道を利用した企画列車や旅行商品の造成支援」を盛り込み、三陸DMOセンターと連携しながら取組を進めていくこととしています。	C（趣旨同一）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
178	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	③内陸地域や東北・北海道と三陸地域を結び、外国人観光客も視野に入れた広域観光の推進	仙台圏などからのシャトルバス（観光バス）のつなぎ方なども検討が必要	北海道や仙台圏など県外からの誘客に向け取組を進めているところであり、バス等の二次交通の充実についても、市町村や交通事業者などと連携し対応を図って行くこととしています。御意見の「仙台圏などからのシャトルバス（観光バス）との接続」については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D（参考）
179	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	③内陸地域や東北・北海道と三陸地域を結び、外国人観光客も視野に入れた広域観光の推進	観光について。大船渡市内の宿泊業者で、ネット販売（予約）している業者が少ない。また、インバウンド対策には、Wi-Fiの整備が必須。キャッシュレス、QR対応、飲食店も含め、地域全体として電子化に対応していく必要がある。	インバウンド対策としてWi-Fi環境の整備やキャッシュレス化の推進などは重要であることから、取組方向に「宿泊施設や商店街等における観光客受入態勢の強化」として盛り込み取組を進めていくこととしています。	C（趣旨同一）
180	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	③内陸地域や東北・北海道と三陸地域を結び、外国人観光客も視野に入れた広域観光の推進	キャッシュレス化のセミナーなども開催されるが、整備が進まないのは、セミナーが「知らないので教えます」的な知識伝達型、上から目線的なセミナーであるから。より、実践的な取組を促すセミナーにした方がよい。	キャッシュレス化は重要であることから、取組方向に「宿泊施設や飲食店、商店街などのキャッシュレス化の支援」として盛り込み、支援手法となるセミナー等の開催にあたっては、事業者がより実践的に取り組めるプログラム内容とするなど、ニーズを捉えながら対応を進めていくこととしています。	C（趣旨同一）
181	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	14多様な資源と新たな交通ネットワークを生かした観光産業を盛んにします	③内陸地域や東北・北海道と三陸地域を結び、外国人観光客も視野に入れた広域観光の推進	2019年は、宮古にダイヤモンド・プリンセスが来航し、ラグビーワールドカップが開催されるが、海外からのお客に対しぶっつけ本番といった感がある。クルーズ船来航の機会等を生かし、外国人に触れ合う仕掛けを作ることが必要ではないか。	ラグビーワールドカップ2019 TM 釜石開催など大規模イベントに向け、情報発信の強化や受入態勢の充実などの取組を進めているところであり、御意見のクルーズ船来航の機会を生かした外国人との触れ合う仕掛け作りについては、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D（参考）
182	沿岸広域振興圏	Ⅲ豊富な地域資源や復興により整備された産業基盤、新たな交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域	15 整備が進む社会基盤を産業振興に生かします	②物流の高度化に向けた港湾機能の強化とポートセールスの推進	ポートセールスの用語解説について、「船社や荷主等を集めて」と記載されているが、実際のポートセールスでは、企業訪問も含まれることから「船社や荷主等に対し」とすべき。	御意見のとおり船社や荷主等を集める以外に企業訪問も含まれることから、「集めて」という表現を削除するとともに、文章全体を見直しました。	B（一部反映）
183	沿岸広域振興圏	その他			政策推進プランなどを見ると、「県以外の主体の取組」が記載されているが、県が政策を進めてやるので、県以外の主体も取り組み的な、上からの目線を感じる。県職員も市民の一人であることから、市民目線、住民目線を持ち、対等な立場で計画を作してほしい。	「いわて県民計画（2019～2028）」の策定にあたっては、各地区での住民説明会やパブリックコメントの実施等により、各方面からの御意見を伺いながら進めています。計画の推進にあたっては、県民が一体となって取組を図ることが重要であり、今後とも御意見を伺いながら、適切に進めていきます。	D（参考）
184	沿岸広域振興圏	その他			工程表には、様々な制度が記載されているが、その先にいる制度利用者が誰なのか、誰が制度を使えるのか、目に見えるようにしてもらいたい。言葉はよいが、どうやって実現していくか、アプローチ手法が重要。	制度の周知については、様々な媒体を使った広報の実施に加え、関係機関等と連携した制度説明会や制度利用者へのあっせんなどを行い、わかりやすく、つかいやすい環境を整備していきます。	D（参考）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
185	沿岸広域振興圏	その他			どの政策にどの程度の予算をつけて成果を出していくのかが良くわかるようにした方がよい。もちろん、収支だけではない、地域コミュニティなどが受益する分野もあるわけで、このような分野に対し、成果指標をどのように設定するかも重要。	地域振興プランによる政策の推進に対応した予算については、県民にわかりやすく公表していきます。また、毎年度の成果については、県が取り組む具体的な推進方策で設定した指標をもとに、評価を行い、適切な施策の推進を図ることとしています。	C (趣旨同一)
186	沿岸広域振興圏	その他			ソフト事業に対しても予算をしっかりとつけてほしい。高齢者が多い地域であるので、その方面に予算をつけざるを得ないことも理解できるが、次の世代への予算のかけ方を増やしてほしい。全般的に、人に対する投資が良く見えるようにしてほしい。	「いわて県民計画(2019~2028)」の「家族・子育て」分野では、結婚・出産、子育ての支援や地域全体で子どもたちを育む環境づくり、働き方改革の推進など仕事と生活を両立できる環境づくりを盛り込み、次世代が健やかに育つことができるよう取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
187	沿岸広域振興圏	その他			教育について。地域に愛着を持つためには、社会人になってからも学ぶことが重要。親が学ぶ姿勢を見せないと、子供も駄目になってしまう。大人が学べる環境づくり、学んでいけるサイクルづくりが必要。	県では、多様な学習機会の充実を図るほか、多様な学びのニーズに応じた社会教育施設の充実などを図っていくこととしています。	C (趣旨同一)
188	沿岸広域振興圏	その他			情報発信施策について。いわてグラフでは、凄いい人だけを取り上げているが、余暇を楽しむなど、岩手での暮らしを満喫している県民も取り上げてはどうか。岩手での様々な暮らしを提起するためにも、このような県民をもっと取り上げてほしい。	住民一人ひとりが自分の希望に向かって、いきいきと働き、安心して暮らしていくことのできる社会を目指す「いわて県民計画(2019~2028)」の実現を図るため、効果的な情報発信を行なっていきます。	D (参考)
189	沿岸広域振興圏	その他			改正入管法について。外国人は、10年後には相当増えてくると思う。特に介護現場は大変である。人手が足りない。幸福になれるような、外国人との関係づくりを考えていく。働くなら岩手と外国人にもわかってもらう土壌作りを行う。今のうちから対応策を打ち出し、動いた方がよい。	労働力不足への対応については、多様な人材を活用することが重要であることから、取組方向に「潜在的な労働力の掘り起こしや多様な形態の就業の促進」を盛り込み、女性や高齢者をはじめ、外国人を含めて多様な就業ニーズに応じた、暮らしと仕事が調和した働きやすい職場環境づくりに取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
190	沿岸広域振興圏	その他			若者・女性の活躍推進を地域振興プランに記載しているが、是非、現場の声、若い人の声を吸い上げ支援してほしい。釜石市には「〇〇会議」という若者主体のアイデア会議が多く設けられ、積極的な取組が展開されているが、支援がどうなっているのか。釜石市に対してヒアリングなどを行い、県でも支援してほしい。	若者・女性の活躍推進にあたっては、地域の主体的な取組を支援していくことが重要であり、地域経営推進費などを活用しながら、市町村との連携のもと、取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
191	沿岸広域振興圏	その他			釜石の〇〇会議は、すぐれたアイデアを持ち、この地域の活性化の起爆剤となるもの。若者に元気をどのようにつないでいけるか。県には、若者にヒアリングなどを実施してほしい。	若者・女性の活躍推進にあたっては、地域の主体的な取組を支援していくことが重要であり、地域経営推進費などを活用しながら、市町村との連携のもと、取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
192	沿岸広域振興圏	その他			地域振興プランの資料に、SDGsの記載があるが、感心した。釜石でも取り組んでいく、との意気込みを感じたが、日常生活でどのようにSDGsを生かしていくのかについては、正直大変。SDGsの取組については、判り易く、取組を進めてほしい。	幸福を次世代に引継ぎ、持続可能な社会を目指し、SDGsの考えを取り入れた取組の成果を住民に実感していただけるよう「いわて県民計画」を推進していきます。	D (参考)
193	沿岸広域振興圏	その他			〇〇会議などで、優れたアイデアが多数あるが、実施につながらない。(若者の)次のチャレンジにつながる支援策があれば、よいと思う。	地域振興プランでは、若者や女性の様々な意見等を参考にしながら、若者や女性がより一層力を発揮できる地域づくりの支援を進めていくこととしています。地域経営推進費などを活用しながら、市町村との連携のもと、取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
194	沿岸広域振興圏	その他			沿岸広域振興局に勤務する職員と地元住民とのつながりを深めてほしい。釜石よいさには、今どの程度の職員が参加しているか正確には把握していないが、自身が30代~40代のときは、振興局の方々と色々な場面で交流会を行った。県職員との友達も多かった。県職員も「釜石会」などのつながりを作り、転勤後も、節目節目で、祭りや行事に参加してもらっていた。県の沿岸広域振興局には、このような地元とのつながりをより深めてほしい。	岩手県職員憲章では、「地域社会の一員としての自覚」を持つことが掲げられており、沿岸広域振興局においても、地域行事への参加や地域との交流などを図っているところです。今後も、引き続き地域意識を持ちながら、取組を進めていきます。	D (参考)
195	沿岸広域振興圏	その他			自然災害については、災害廃棄物の対策も想定しておく方がよい。準備を考えておいた方がスムーズに対応できる	県では、平時から大規模災害までの切れ目のない対応への備えとして、平成28年3月に「岩手県災害廃棄物対応方針」を策定するとともに、自然災害により大量の災害廃棄物が発生した際にも、市町村が迅速かつ適正に処理できるよう、「市町村災害廃棄物処理計画」の策定に係る支援に取り組んでいます。平成30年1月には、「市町村災害廃棄物処理マニュアル」を作成し、各種研修の機会を捉えた周知等の取組を進めています。	C (趣旨同一)
196	県北広域振興圏	I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健やかに暮らせる地域	1 多様な交流・連携により地域コミュニティを活性化します	②地元定着、移住・定住の促進	スポーツによる子供たちの心身の健全な発育といった地域活性化も大切だが、持続可能な地域づくりには、子供たちに目を向け、子供たちが地域の魅力を発見するなどの取組による地域づくりが大切である。	子供たちに目を向けた地域づくりの取組については、政策推進プランに盛り込まれ、全県的に取り組むほか、地域振興プランにおいても、「県が取り組む具体的な推進方策」に「子どもの郷土愛を育むための体験交流」を盛り込んでおり、併せて取り組むこととしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
197	県北広域振興圏	I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健やかに暮らせる地域	1 多様な交流・連携により地域コミュニティを活性化します 2 文化芸術・スポーツの持つ力を地域活性化へとつなげていきます	基本方向、具体的な推進方策	一戸町に住んでいると東京の方を見がちだが、目先を八戸や北海道など、北に向けての連携を強く押し出している点で、足元から固めるという考え方が素晴らしい。	北東北・北海道とは歴史的・文化的な深いつながりがあり、また、交通ネットワークの整備や世界遺産登録に向けた取組などによってもつながりができてきていることから、北東北・北海道の連携について引き続き取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
198	県北広域振興圏	I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健やかに暮らせる地域	2 文化芸術・スポーツの持つ力を地域活性化へとつなげていきます	③カーリングなどの生涯スポーツの定着や競技スポーツの魅力発信の推進	スポーツについて、「カーリングなど」と記載があるが、アイスホッケーも付け加えていただきたい。	スポーツの推進については、県北地域の特性、オリンピック選手を輩出するなどの実績、これまでの県の取組の経緯等を踏まえ、「カーリング」を例示としたものです。その他のスポーツについても、カーリングと同様、生涯スポーツとしての定着や競技スポーツの魅力発信などに取り組んでいきます。	D (参考)
199	県北広域振興圏	I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域	3-1地域における医療体制を整え、心身の健康づくりと支え合う福祉の環境をつくれます(保健・医療分野)	②医療連携及び保健・医療・介護・福祉連携の推進	アクションプランでは、医師・看護師の確保に触れられているが、本県においてはリハビリテーション専門職種(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)の配置に県北部・沿岸部と県中部・県南部との間に格差が生じている。良質な医療の提供とともに県内の均一な地域包括ケアシステム推進にはリハビリテーション専門職種の配置も重要であり、県北部・沿岸部におけるリハビリテーション専門職種並びにリハビリテーション資源の確保を明記されてはどうか。	良質な医療の提供や地域包括システムの推進には、リハビリテーション専門職種が重要ですが、県北管内では、医療に関係する職種全般にわたり不足していることから、職種全般「医療に従事する人材」を育てることとしているものであり、そのために取り組む中学校での出前授業や医療現場体験会等において、各職種について説明したり見学してもらい、将来の人材確保に努めています。	D (参考)
200	県北広域振興圏	I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域	3-2地域における医療体制を整え、心身の健康づくりと支え合う福祉の環境をつくれます(介護・福祉分野)	②地域で支える高齢者支援	「介護職員や福祉施設職員の処遇改善を図る」のは、県ではなく、事業ではないか。	介護職員等の処遇改善については、直接的には各事業所の判断において行うものあり、県では処遇改善加算制度の周知等を行い、事業所の処遇改善加算の取得を促進していることから「処遇改善を促進する」に表現を変更しました。	A (全部反映)
201	県北広域振興圏	I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域	3-2地域における医療体制を整え、心身の健康づくりと支え合う福祉の環境をつくれます(介護・福祉分野)	②地域で支える高齢者支援	「介護や福祉の仕事に関する魅力の発信」は、誰に対してどのように行うのか示していただきたい。	介護人材の確保については、新卒者・求職者のほか、中高生などに対し、企業見学会や職場体験等を通じ、介護の仕事への理解や関心を深め、多様な人材の確保を図っていきます。	F (その他)
202	県北広域振興圏	I 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健やかに暮らせる地域	3-2地域における医療体制を整え、心身の健康づくりと地域で支え合う福祉の環境をつくれます(介護・福祉分野)	①地域で支える子育て支援	子ども食堂の取組については、県でも応援いただきたい。	子ども食堂や学習支援などの子供の居場所づくりについては、官民一体となった支援が重要であることから、市町村や子どもの居場所づくりに取り組む団体との連携を図るとともに、今年度実施した子どもの生活実態調査結果を踏まえ、必要な取組を行うこととしています。	C (趣旨同一)
203	県北広域振興圏	II 自然豊かで再生エネルギーを生かした災害に強い地域	7 豊富な再生可能エネルギーを生かした持続可能な地域づくりに取り組みます		再生可能エネルギーについて、どのように中央にアピールし、また、地域で発生したエネルギーをどう地域に有効活用するのかを、狙いとして定めていただきたい。	再生可能エネルギーの利活用については、具体的な推進方策に盛り込んでおり、2019年度から勉強会を、2020年度には学識者も含めた協議会を設置し、再生可能エネルギーの域内循環、地産地消などについて検討を進めていくこととしています。	C (趣旨同一)
204	県北広域振興圏	III 誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域			産業振興関係について、他の3つの広域振興圏と比べて、表現が弱い。	「いわて県民計画(2019~2028)」長期ビジョンや地域振興プランを策定するうえで、現状分析と併せて、向こう10年間の社会経済情勢の変化等を予測しながらイメージを作ってきましたが、御提言の趣旨を踏まえ、表現を変更しました。	A (全部反映)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
205	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産物のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	現状と課題	33ページ、現状と課題（「・」の一つ目）に肉用牛についても盛り込んでいただきたい。	「現状と課題」の最初の段落に記載した品目は、県北地域で産出額の大きい畜種等を例示したものです。県北地域は、黒毛和種（繁殖経営）や日本短角種の産地であり、他の畜種と同様に、産地の維持・発展に向け、経営体の育成や生産性の向上に取り組んでいきます。	D（参考）
206	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産物のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	①経営感覚に優れた経営体や新規就農者等の確保・育成	（しいたけ栽培の）経営規模を拡大したくても労働力確保が難しく、農福連携に期待しているが、障がい者は同じ作業が得意なので、農福連携の農家間の連携についてもご検討いただきたい。	農福連携については、平成29年度からモデル実証などの取組を進めているところであり、御意見の「農福連携の農家間の連携」については、実証結果の検討や農家、福祉分野との意見交換等を通じて、情報共有と連携に取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
207	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産物のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	①経営感覚に優れた経営体や新規就農者等の確保・育成	農福連携について、同じ場所だと安心する障がい者の特性を踏まえ、同じ場所で実施した方が、企業も障がい者もノウハウと自信を得ると思うのでご検討願いたい。	農福連携の定着のためには、農業分野及び福祉分野双方が無理なく取り組める体制が必要であることから、御意見については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D（参考）
208	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産物のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	④県北圏域ならではの農畜産物の新たな販路の開拓等の促進	ブランド化について、成果を上げることにあせらず、情報発信のノウハウがない生産者とそれをバックアップする県の役割分担を確立して、本物のブランド化を目指していただきたい。	農畜産物のブランド化のためには、中長期的な取組も必要であることから、御意見の「生産者と県の役割分担の確立」については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D（参考）
209	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産部のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	①経営感覚に優れた経営体や新規就農者等の確保・育成	農福連携を本気で進めていただきたい。障がい者がその仕事でご飯が食べられる状況にすることが大きなテーマと思っている。	農福連携については、平成29年度からモデル実証などの取組を進めているところであり、今後はその定着に向け、農家と福祉施設とのマッチング体制の構築に取り組むこととしています。	C（趣旨同一）
210	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産部のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	③高度な生産技術や安全・安心を確保する取組等の導入・普及	養鶏業に対してなかなか政策が見えてこない感じがする。これは企業努力も必要だが、鶏糞の利活用や処理が順調に進めば、さらに養鶏場が作れ、ポテンシャルも広がるので、検討願いたい。	養鶏業については、鶏肉価格が基準を下回った場合に差額を補てんする価格安定対策を本県独自に実施するとともに、飼養衛生管理基準の遵守、家畜伝染病の監視・通報体制の強化に取り組むこととしています。鶏糞の利活用については、「県が取り組む具体的な推進方策」に「太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入の促進」を盛り込んだところであり、管内市町村と連携して事業者等の取組を支援することとしています。	C（趣旨同一）
211	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産部のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	③高度な生産技術や安全・安心を確保する取組等の導入・普及	若い人たちにはICT機器を利用した農業が非常に普及してきていることから、そのような次世代型の農業を推進したいと考えているので、その取組に対して支援をいただきたい。	省力化や低コスト化等に向け、情報通信技術（ICT）や環境制御技術等の導入を促進することとしています。	C（趣旨同一）
212	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産部のブランドを確立し、多様なスタイルでいきいきと暮らせる農村をつくります	③高度な生産技術や安全・安心を確保する取組等の導入・普及	農業改良普及センターの当村（九戸村）への甘茶の技術指導等については、今後も継続して取り組んでいただきたい。	甘茶の生産性向上に向け、関係機関・団体と課題を共有しながら、引き続き、具体的に取り組んでいきます。	C（趣旨同一）

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
213	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	8北いわての農畜産部のブランドを確立し、多様なスタイルでいきと暮らせる農村をつくります	③高度な生産技術や安全・安心を確保する取組等の導入・普及	乳用牛の高品質な受精卵を広域で取り入れ、品質の向上を図っていただきたい。	県では、広域的な取組として、乳用後継雌牛を確保するため、性判別精液を活用したモデル実証の取組を進めているところですが、御意見の受精卵の活用については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D (参考)
214	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	10担い手の確保・育成と漁業生産量の回復	①漁業の担い手の確保・育成	漁業の後継者問題について、県では今年度より「明日の浜人応援事業」、また来年度から「いわて水産アカデミー」をやると聞いている。我々も行政と連携をとりながら岩手県の漁業を背負っていき育てていきたいと考えている。	漁業の後継者の育成は重要であることから、「県が取り組む具体的な推進方策」に「新たな担い手の確保・育成に向けて漁業協同組合や市町村と連携して受入態勢を整備する」ことを盛り込んでいるところです。 また、今年度は「明日の浜人応援事業」により高校生を対象とした漁業体験を実施したところですが、これらの漁業体験は漁業就業のきっかけづくりとして重要であることから、取組方向に「小学生から高校生までを対象とした様々な漁業体験の機会をつくっていく」ことを盛り込んでいるところです。	C (趣旨同一)
215	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	10担い手の確保・育成と漁業生産量の回復・向上を進めます	②漁業政策量回復・生産性向上	磯焼けの対応について広域で研究していただきたい。	県水産技術センターでは、アワビ、ウニの安定した生産を図るため、餌となる海藻の安定した生産や効果的な餌料供給技術の開発を行っているところです。 また、地域振興プランにおいても、「県が取り組む具体的な推進方策」に「アワビ、ウニの計画的な種苗放流や漁業協同組合間の連携による餌対策など、生産力の高い漁場づくりを進めるとともに、適切な資源管理を行い水揚げ量の安定化を図る」ことを盛り込み、取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
216	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	11北いわての魅力ある食材を生かした食産業を盛んにします	①事業者の経営課題に応じた支援	製造した鶏肉をそのまま売るのではなく、燻製にするなどの6次産業化推進等を図っていただきたい。	本県のプロイラー企業では、鶏肉を原料とした加工販売の取組が拡大してきていることから、今後とも魅力ある商品づくりや販路の開拓・拡大の支援に取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
217	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	11北いわての魅力ある食材を生かした食産業を盛んにします	②北いわて食材の認知度向上	鶏の産地ながら自分たちが食することが少ないと感じており、来年から、道の駅を使い、毎月「鶏肉の日」を設定しPRしていきたいと考えているので、支援をいただきたい。	地域内外に向けた鶏肉の産地PR、消費拡大については、各種イベントや地域内での消費拡大キャンペーンなどの取組を進めており、「県が取り組む具体的な推進方策」の中で、「県北地域のプロイラーの魅力圏域内外にPRするとともに、地元での消費拡大を図る」こととしています。御意見のあった「鶏肉の日」など市町村が具体的に取り組む事業については、県としても積極的に支援していきたいと考えています。	D (参考)
218	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	11北いわての魅力ある食材を生かした食産業を盛んにします	③食産業の担う人材の育成	鶏王国ブランド推進事業とあるが、6次産業化をしっかりと進め、地元のものを使い、地元の人を知って利用することが基本になると思う。そして、商品のブラッシュアップや、コラボの商品を作っていくというようなことを進めていければ良いと思っている。	鶏王国ブランド推進事業については、地域内外に向けた鶏肉の産地PR、消費拡大に向け、地元の鶏肉をPRするイベントや地域内での消費拡大キャンペーンなどの取組を進めているところであり、御意見の商品の開発等については、「県が取り組む具体的な推進方策」に「事業者の商品開発力や生産性の向上などの改善活動の支援」を盛り込み、取組を進めることとしています。	D (参考)
219	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	12アパレル産業など高い技術力を有するものづくり産業を盛んにします	②地域の特徴的な産業の振興	幅広くいろいろなものを作れるのが久慈・二戸地域のアパレル産業の強みである一方、繊維素材の確保が弱みとなっており、ブランディングの面では他圏域との連携が必要と考えている。	アパレル産業の振興を図るためには、産地としてのブランド化に取り組むことが重要であることから、関係団体等と連携し、情報発信や人材育成などの取組を進めているところであり、御意見のありました「他圏域との連携」については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D (参考)
220	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	13隣接圏域と連携した広域観光を進めます	①特色ある地域資源を活用した観光の推進	御所野を核とした交流人口の拡大は世界遺産登録になってからということではなく、登録に向けた取組と並行して進めるべきものと考えているので、機運醸成と広域観光の両方に位置づけられていることはよかった。	御所野遺跡の世界遺産登録については、国内外からの観光客誘客の好機であることから、「県が取り組む具体的な推進方策」の中で、「登録後を見据えた地域資源のブラッシュアップやそれらを活用した体験・交流型観光を推進」することとしています。	C (趣旨同一)
221	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	13隣接圏域と連携した広域観光を進めます	①特色ある地域資源を活用した観光の推進	他地域よりも大きな起爆剤となりうる世界遺産登録をきっかけとして広域が活性化できるよう、ソフト面ハード面で支援をお願いしたい。	御所野遺跡の世界遺産登録後には観光客の増大が見込まれることから、「県が取り組む具体的な推進方策」に、「登録後を見据えた観光資源のブラッシュアップ」、「観光を担う人材の育成」や「受入体制の整備」を盛り込み、取組を進めることとしています。	C (趣旨同一)

番号	大区分	総計審	小区分	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
222	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	13隣接圏域と連携した広域観光を進めます	①特色ある地域資源を活用した観光の推進	久慈市としては、あまちゃんを活用したロケツーリズムに積極的に取り組んでいくので、支援をお願いします。	広域観光を振興し、交流人口を拡大していくためには、ほかにはない特色ある地域資源の活用が効果的であることから、「県が取り組む具体的な推進方策」に「あまちゃんの知名度を生かしたロケの誘致」を盛り込み、取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
223	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	13隣接圏域と連携した広域観光を進めます	①特色ある地域資源を活用した観光の推進	みちのく潮風トレイル、ジオパーク（及びお遍路さん）があるが、危険な場所もたくさんあるとのことなので、ハード部分は国から支援をいただきながら、安全で女性も子供も歩けるようなコースを作っていただくことを期待する。	広域観光を振興し、交流人口を拡大していくためには、ほかにはない特色ある地域資源の活用が効果的であることから、「みちのく潮風トレイルや三陸ジオパークなどの地域資源を生かした観光メニューの整備」などの取組を進めているところです。	D (参考)
224	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	14雇用環境の改善と若年者などの就業支援について		労働力不足により、外国人研修生の受け入れの流れが、今後各市町村に広がっていくと思うので、支援の強化をお願いしたい。	労働力不足への対応については、地域産業の担い手となる若年者の地元就職や職場定着の促進のため、市町村や関係機関と連携して取組を進めているところですが、御意見のありました「外国人研修生の受け入れに対する支援の強化」については、国の動向や市町村等の対応を踏まえ、県の取組を検討していきます。	D (参考)
225	県北広域振興圏	Ⅲ誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域	14雇用環境の改善と若年者などの就業支援を進めます	②関係機関との連携による若者の地元就職や職場定着の促進	女性就業者割合が95%と女性あつての製縫業であるが、職場の高齢化が進み、いかに若年者を引き留めるかが課題となっており、企業の側も努力するが、県の支援もお願いしたい。	地域産業の振興を図るためには、担い手となる若年者の地元就職や職場定着を促進していくことが重要であることから、取組方向に「雇用・労働環境の改善」や「若年者の地元就職・職場定着の促進」を盛り込み、市町村や関係機関と連携して支援することとしています。	C (趣旨同一)
226	県北広域振興圏	その他			県職員も市町村職員と一緒に現場に足を運び課題を共有して施策を立て、総合計画（地域振興プラン）にも反映していただきたい。	県と市町村の連携については、従来から県のビジネスパートナーは第一に市町村であると認識しているところであり、御意見については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D (参考)
227	県北広域振興圏	その他			幸福度について、4圏域の中で県北地域だけが低かったようだが、どの項目の幸福度が低く、それに対して次期計画にどのように盛り込まれているか。	「いわて県民計画（2019～2028）」長期ビジョンについては、「幸福」をキーワードに策定を進めているところであり、長期ビジョンの実効性を確保するためのアクションプランの一つである地域振興プランにおいても、長期ビジョンの考え方を受けて策定を進めています。	C (趣旨同一)
228	その他				「地域振興プラン」は、各地域の特色が表れているが、一方で、「政策推進プラン」との縦の繋がり、また、地域間の記述の濃淡など横のバランスに配慮が必要ではないか。「地域振興プラン」の具体的な内容は、今後示される工程表や指標に注目したいが、是非とも今後の農家・農業・農村のあるべき姿を分かり易く語りかけるものに仕上げてもらいたい。	地域振興プランは、各広域振興圏の目指す姿を実現するため、重点的・優先的に取り組む施策や、具体的な推進方策を明らかにするものです。政策推進プランや横のバランス等には一定の配慮をしながらも、具体的な記載内容については、地域の特性を踏まえ、各圏域で御意見をいただきながら検討した内容となっています。	D (参考)